

(案)

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画



知（地）のアリーナ

（H29.1.20 現在）

山形県酒田市

(10代 女性 冬・平日の一日)

朝、友達と学校に行く。学校で授業を受ける。16時半に学校を出て、ライブラリーセンターの中にあるオシャレなカフェで友達とおしゃべりして、1時間ほどしたら、近くのラーメン屋で夜ご飯としてラーメンを食べる。(ライブラリーセンターに駅周辺のラーメンガイドがあるので、それを見て行く。)

ラーメンを食べた後、ライブラリーセンターに戻り、友達と終電まで一緒に教え合いながら勉強する。

電車が発車する15分前にライブラリーセンターを出てみると、クリスマスシーズンなので、赤、緑のイルミネーションがきれいで、友達と写真を撮って帰る!

(40代 男性 休日の一)

今日は妻が友達とランチに行くということなので、6歳の娘と2人でデート(子守り)。なるべく節約したいので、ライブラリーセンターに出かけた。

子ども図書を選んでいると、子どもコーナーで紙芝居の読み聞かせをされていて、娘も興味を持っていた。聞くと3歳以上は、コーナーに置いていっていいらしい。娘をコーナーに置いて、自分は大好きな作家の小説を探しに行く。本を持って子どもコーナーに隣接した読書コーナーでゆっくり本を読んだ。隣の子どものコーナーからは笑い声が聞こえる……。30分経過……。

お昼になったので、コンビニでおにぎりを買って、広場の芝生に座って娘と食事。午後3時まで紙芝居があったらしく、午後3時までライブラリーで過ごした。

ゆっくりした幸せな一日だなあ……。

あなたが、将来酒田コミュニケーションポート(仮称)で過ごす

ある一日のストーリー

(60代中頃 男性 今から10年後)

小春日和の日、よちよち歩きの孫を連れて酒田コミュニケーションポートに出かけた。

広場には、子どもたちを連れてきたお母さん、お父さんたちが、たくさん。思い思いに子どもを、そして親同士が楽しんでいる。私も混ぜてもらおうことにしよう。

しばらくして、気になる新刊を探しに図書館へ。その途中、岸洋子、成田三樹夫の映像が流れていた。若いお父さんに、「この人、誰?」「カッコいい」と言われ、説明する。それをきっかけに、本や雑誌を数冊借り、数人で好きな飲み物を片手に酒田トーク。いつの日か再会を誓って、帰宅。

(30代 女性 ある休日)

近く、遠方から友人が酒田に遊びに来るので、最近の最新観光情報を知りたくて、コミュニケーションポートを利用。最新のおススメツアーなど(体験型で酒田を楽しめる)の情報を観光情報センターで教えてもらい、酒田に来て10年が経つ自分自身も満足する。新しい酒田を発見!

併設されている産直・物産コーナーをぶらぶら見ながら、まずはライブラリーセンターへ、しばし読書。気に入った図書を借りる。

帰り際、先ほど見た産直コーナーで、夕飯の食材(地元産)と新作の日本酒(試飲して気に入ったもの)を購入。カフェで図書を読みながら一服して、帰宅。

※第3回市民ワークショップの最後に、将来酒田コミュニケーションポート(仮称)でどのように1日を過ごしたかを参加者に考えてもらったストーリーの一部です。

目次

はじめに	3
1 これまでの経過	4
(1) 施設整備の経緯	4
(2) 酒田コミュニケーションポートの整備の方針	6
2 基本計画策定の目的	7
3 基本計画の位置付け	8
(1) まちづくり全体に関わる計画	8
(2) 関連する主な個別計画	9
4 本市の現状	15
(1) 地勢・交通	15
(2) 人口	15
(3) 歴史・文化	17
(4) 産業・観光	17
(5) 教育	18
(6) 広域圏形成	18
5 市立図書館・酒田駅前観光案内所の現状・課題	20
(1) 市立図書館	20
(2) 酒田駅前観光案内所	22
6 市民意見等の状況	24
(1) 市民アンケート調査結果	24
(2) 高校生アンケート調査結果	29
(3) 市民ワークショップ結果	30
(4) 高校生ワークショップ結果	34
(5) 各団体等意見交換結果	35
7 基本理念	37
8 基本方針	38
9 機能別サービス、整備方針	39
(1) ライブラリーセンター	39
(2) カフェ	48
(3) 観光情報センター	49
(4) 広場	51

(5) 駐車場	52
(6) バスベイ	53
(7) その他	53
10 施設計画	54
(1) 施設整備の基本的な考え方	54
(2) 施設全体の構成・計画に対する留意事項	54
(3) 地域産業支援基本方針に基づく整備の推進	57
(4) 施設各機能の計画の留意事項	57
11 管理運営計画	59
(1) 開館時間及び休館日	59
(2) 運営組織	61
(3) 運営形態	62
(4) 事業計画及び評価	62
(5) 民間施設、周辺関係機関等との連携	62
12 人材の確保及び育成	63
13 市民とともに歩み、成長していく施設づくりを目指して	64
14 事業スケジュール	65
資料編	66

まちの再生のシンボルとして

～酒田の新しい船出がここから始まる～

本市の市街地域における人口総数（国勢調査）は、昭和 10 年代後半以降増加し続け、合わせて世帯数も増加し、これに伴い昭和 30 年代後半から市街地の拡大、宅地の拡大が進展していきました。人口総数は平成 7 年がピークとなりましたが、世帯数は、平成 22 年においても、なお伸び、区画整理は平成 17 年まで続きました。

この間、まちの広がりとともに、道路を中心としたインフラ整備も進み、商業環境も大きく変化していきました。酒田駅周辺地区では、平成 9 年に大型商業施設の旧ジャスコが撤退し、酒田の玄関口（顔）といえる場所が、現在に至るまで未利用地として存在しています¹。

これまで、当該未利用地の民間事業者による開発事業が 2 度計画されましたが、実現に至らずにいます。また、全市的な共通課題でもある少子高齢化・人口減少社会が、当地区でも急激に進展し、商店街の空き店舗数も増加し、来街者に、まちの停滞、空洞化を印象づけるものになっていると考えられます。

このような状況を打開し、また、将来にわたり持続するまちづくりへ資するため、旧ジャスコ跡地を中心とする区域において、公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称））の導入を決定し、平成 28 年 7 月には、全国公募により再開発の事業予定者を決定したところであります。

今回の官民複合施設による再開発は、まちに新たな価値を創出し、市民の暮らし・生活の豊かさを実現し、また、酒田駅周辺地区の活性化、中心市街地の均衡ある発展、まちなかへの回遊性の向上等の起爆剤となるまちの再生のシンボルになりたいと考えています。

本市は、長い歴史の中で、湊町酒田として築かれてきた風土があり、「進取の気性（精神）」「公益の心」が息づいていると言われ、まさしく、今回の整備において、その精神・心が求められるものと思います。先人に恥じぬよう、また将来世代へ受け継いでいく責務を持って進めなければなりません。

本書は、今回の再開発で整備される公共施設が、市民に愛され、ともに成長していく施設として実現していくための羅針盤となるため、酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画（以下「基本計画」という。）として定めるものです。

¹ 平成 26 年からは、暫定駐車場として開放している。

1 これまでの経過

(1) 施設整備の経緯

平成9年に旧ジャスコが撤退して以降、当該跡地については、2度にわたる民間事業者による開発事業が実現に至らず、未利用地となっていました。

(酒田駅周辺地区グランドデザイン(平成26年度))

そうした現状を脱却するべく、平成26年度に、市が主体となって、学識経験者、市民代表等からなる「酒田駅周辺地区グランドデザイン検討懇談会」等から意見を伺いながら、酒田駅周辺地区(約9.0ha)の将来のあるべき姿を再整理し、整備に関する方針を明らかにするため、「酒田駅周辺地区グランドデザイン」を策定しました。

当該地区は、中心市街地の他地区と同様に人口の減少と高齢化が進むとともに、空き地や空き家が目立つようになってきています。また、建物の老朽化も進んでおり、緊急車両の通行が難しい細街路も多いことから、災害に対する脆弱性も懸念される状況になっています。

さらには、駅周辺の交通結節機能の分散(駅とバスターミナル)や駅前広場における各機能の充実等の課題を抱えており、公共交通機関の利便性が高い駅前の魅力を生かすことができていません。

このような中、当該地区の求められる機能として、「玄関口機能」「交通結節機能」「市民にぎわい交流機能」「まちなか居住機能」の4つを掲げ、目指すまちづくりの基本理念を「観光起点+市民の憩いの場」と定め、当該地区を起点にまち全体が有機的につながり、来街者、市民がともに回遊を生み出し、それがまちの魅力と利便性を向上させ、「ひと」で賑わう空間を形成していくと位置付けました。

旧ジャスコ跡地と隣接街区の整備の方針としては、「土地活用は空洞化の解消という意味において喫緊の課題であり、市民からの有効活用が強く求められている。また、隣接する街区にある老朽化した高層建築物等を含めた整備の検討も必要なエリアである」との評価を行い、「市民生活の利便を高め、にぎわいと交流を向上させる機能を担う「市民にぎわい交流機能」を中心に短期整備をする」としています。

また、事業実施にあたっては、官民複合施設を想定していくこととしました。

酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念 「観光起点+市民の憩いの場」

【図1】酒田駅周辺地区（酒田駅周辺地区グランドデザインでの位置付け：9.0ha）



（対話型市場調査、整備計画方針（平成27年度））

これを基に平成27年度には整備事業への参加意欲のある民間企業を対象に、実現可能な事業化プランを求め、意見交換を行う対話型市場調査を実施しました。そして、当該調査結果等を踏まえ、本市における行政課題、財政負担、市民の利便性向上、持続可能なまちづくりなど多方面にわたる検討を行い、ライブラリーセンターを中核とした公共施設（酒田コミュニケーションポート（仮称）（以下単に「酒田コミュニケーションポート」という。））の導入を決定し、その他整備区域、事業手法及び公共施設購入基準額を盛り込んだ「酒田駅前整備計画方針」（以下「整備計画方針」という。）を定めております。

（事業者募集（平成27～28年度））

この整備計画方針に基づき、第一種市街地再開発事業を基本として、事業の実施主体となる民間事業者を募集し、提案内容の公開プレゼンテーションや市民アンケート等を踏まえ、平成28年7月に事業予定者を西松建設株式会社に選定しています。

今後、市、事業予定者及び地権者での基本協定締結や都市計画決定、設計等を経て平成32年度の工事完成を目指していくこととなっております。

(2) 酒田コミュニケーションポールの整備の方針

整備計画方針において、酒田コミュニケーションポールの施設コンセプトとして、次のとおりとしています。

**人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、
新しい風・パワーを生み続けるハブ拠点**

導入する機能の整備目的と整備内容は、次のとおりとなっています。

機能	整備目的	整備内容
ライブラリーセンター	<ul style="list-style-type: none">・未来を築く人財育成、交流支援機能の充実・多様な読書スタイルを提供し、多様なニーズへの対応<学びの場、子育ての場、交流の場、情報発信の場>	<ul style="list-style-type: none">・床面積 3,000 ㎡を基本として整備・カフェや憩いの場等として、別途 200 ㎡を基本として整備・蔵書数は、30 万冊（開架 20 万冊、閉架 10 万冊）を参考規模として想定
観光情報センター	<ul style="list-style-type: none">・駅前の観光案内、情報発信機能の向上	<ul style="list-style-type: none">・100 ㎡を基本として整備
広場	<ul style="list-style-type: none">・駅前にはイベント等に活用できる空間がない・景観形成や憩いの場として	<ul style="list-style-type: none">・1,000 ㎡を基本として整備
駐車場	<ul style="list-style-type: none">・公共施設利用者及び駅周辺への不特定多数利用者用	<ul style="list-style-type: none">・整備駐車台数のうち 200 台
バスベイ	<ul style="list-style-type: none">・交通結節点機能強化のため、駅前バス停を集約	<ul style="list-style-type: none">・旧ジャスコ跡地の北側（県道沿い）に整備

なお、ライブラリーセンターは、現中央図書館機能も引き継ぐものとし、また観光情報センターは、現駅舎内にある観光案内所を移転・強化するものであります。

2 基本計画策定の目的

- 酒田コミュニケーションポートの具体化のため、必要な機能やサービスのあり方等について定めるものです。
- 将来に向けた羅針盤であり、将来の世代への約束・宣言書となるものです。

本基本計画は、酒田駅周辺地区のまちづくりの基本理念や、整備計画方針で定める目指すべき酒田コミュニケーションポートの具現化のため、必要な機能やサービスのあり方等について定めるものです。

なお、策定にあたっては、様々な機会を捉えて幅広く市民からも参画していただき、そこで出された意見等も参考としながら、取りまとめたものです。

本書では、特段、計画期間は定めていません。だからと言って、施設が完成したら基本計画の役割も終わりということではありません。目指そうとしているまちづくりは、施設が完成したら即座に実現するものではなく、完成後も絶え間ない試みを継続していかなければ、達成できません。

また、少子高齢化・人口減少社会の進展や技術革新等により、将来に渡って市民ニーズは益々多様化し、その時代時代で、酒田コミュニケーションポートの役割に変化が求められ、それに柔軟に対応しながら、目的を見失わず、市民に愛される施設として持続していく必要もあります。

そのためにも、本書は、その羅針盤としての役割を果たし、また、将来の世代への約束・宣言書となるものです。

3 基本計画の位置づけ

(1) まちづくり全体に関わる計画

○本市のまちづくりの課題を解決し、目指す将来像の実現に資するため、酒田コミュニケーションポールの整備・運営を進めていきます。

① 酒田市総合計画

1市3町による合併後の平成19年9月に策定された「酒田市総合計画」（計画期間は、平成20年度から平成29年度まで）では、「雇用の拡大」と「人口減少の抑制」を最重要課題と捉え、基本理念と都市の将来像を、次のとおりとしています。

<基本理念>

心豊かに健やかで未来に向かうまちづくり 【人】
誇りと信頼にあふれる協働のまちづくり 【ふるさと】
創造が世界に広がる活力あるまちづくり 【交流】

<将来の都市像>

人いきいき まち快適 未来創造都市 酒田

この実現のため、施策の大綱（8つの柱）として

- ・公益の心を育むまち
- ・潤いと美しいが広がるまち
- ・元気があふれるまち
- ・賑わいと活力に満ちたまち
- ・地域力が高いまち
- ・明日を拓く交流のまち
- ・安全と安心を実感できるまち
- ・市民のための質の高い行財政運営

を定め、選択と集中の視点のもと、「雇用創造」「市民元気」「個性創造」「まち快適」を4つの重点プロジェクトとして推進してきています。

計画策定から5年経過した中間見直しにおいては、「人口減少、少子高齢化対策」を市の最重要課題と位置付けています。

なお、現在、平成30年度からの次期酒田市総合計画を策定作業中ですが、本基本計画で定める目標や方針との整合性を図ります。

② 酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略

酒田市総合計画を基本に、平成27年10月に策定された「酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、酒田市人口ビジョンに掲げた人口の将来展望（2060年の段階で7万5千人程度）を実現していくため、次の4つの基本目標を掲げています。

- I. “働きたい”がかなう酒田をつくる
- II. 酒田への新しい人の流れをつくる
- III. “結婚・出産・子育ての希望”がかなう酒田をつくる
- IV. “つながり”と“安心”にあふれた「住み続けたい」酒田をつくる

これらの計画及び戦略は、本市の将来を展望する上で最も重要なものであり、駅周辺整備事業や酒田コミュニケーションポート（仮称）整備事業も、これらの計画及び戦略を実現するための施策として位置付けられているところです。酒田コミュニケーションポートの目指すべき方向性、あり方（必要な機能やサービス等）については、これらの上位計画の基本理念等の実現を基本としていくこととなります。

(2) 関連する主な個別計画

○各分野の施策と連携しながら、酒田コミュニケーションポートの魅力づくりを行っていきます。

酒田コミュニケーションポートを構成する機能である「ライブラリーセンター」「観光情報センター」「駐車場」「バスベイ」に関わる個別計画として、次のものがあります。

酒田駅周辺地区のまちづくりや酒田コミュニケーションポートの最終的な目標は、基本計画に基づく展開のみで実現できるものではありません。

厳しい市の財政状況や限られた資源配分を考えれば、自ら単独としてではなく、様々な分野と連携し、有機的に交わりながら、オール酒田を意識し、推進していく必要があります。中心市街地活性化分野、観光分野、公共交通分野等、それぞれが発展していくことが、酒田コミュニケーションポートの更なる活性化にも繋がり、それが魅力的な施設運営になると考えます。

様々な分野とのネットワークを積極的に構築して、進めていきます。

① 酒田市中心市街地活性化基本計画

【中心市街地活性化 × 酒田コミュニケーションポート】

平成27年3月に策定された「酒田市中心市街地活性化基本計画」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、「湊まちルネッサンス（再興）－湊のにぎわいと交流のあるまちづくり－」を基本理念に、「にぎわいあふれる商業のまち」「訪ねて楽しい観光のまち」「市民が集う交流のまち」の3つの基本方針の実現を目標としています。

事業推進にあたっては、中心市街地内に5つの拠点エリア（駅周辺、山居倉庫周辺、中町、港、日和山・台町）を設定し、拠点エリアごとの特色を活かした整備を進め、拠点エリア間の回遊性の向上を図り、相乗効果によるにぎわい創出を図るとして

います。

◆関連する主な取組み内容

・駅周辺エリア

J R酒田駅を中心とした地区である。長年、本市の大きな課題となっている大型商業施設跡地、駅前広場、駅舎を含め、本市の玄関口としてふさわしい駅前地区を目指した整備を図っていく。

・回遊性向上の推進

5つの特色ある拠点エリアを有機的に結び付け、相乗効果を図ることを目的に各エリアの回遊性の向上を図る事業（中心市街地循環バス運行事業、街なかサイン整備事業、観光用自転車運行事業等）を積極的に展開していく。

② 酒田市教育振興基本計画 【教育 × 酒田コミュニケーションポート】

平成22年4月策定の「酒田市教育振興基本計画」（計画期間は、平成22年度から平成31年度まで）では、次の3つの教育目標を定めています。

- ・「いのち」を大切にし、健やかな体と心を持つ人をはぐくむ
- ・「まなび」を通して、自立する人をはぐくむ
- ・広い「かかわり」の中で、郷土を愛し、公益の心をもって社会に貢献する人をはぐくむ

◆関連する主な教育施策内容

○基本的方向 世代を超えてまなびあう

○図書館活動の充実

○図書館機能の充実<図書館>

- ・年齢・性別・月別等のデータを分析し、個別需要に応じた適切な選書
- ・多方面での情報収集により郷土資料や本市出身の作家関係資料の収集
- ・中央図書館、各分館、ひらた図書センターや東北公益医科大学メディアセンターとの連携により、市民の要望への対応、利便性の向上
- ・図書館施設の整備の検討
- ・展示スペースの拡大、来館者に新鮮な情報提供、利用者のスキルアップを目的にした講座の開催
- ・高齢者や視覚障がい者への利用拡大のため、大活字本や朗読CDのさらなる充実
- ・雑誌スポンサー制度を導入して、企業の宣伝と社会活動の場の提供と雑誌閲覧の充実

③ 酒田市生涯学習推進計画 【生涯学習 × 酒田コミュニケーションポート】

平成25年4月策定の「酒田市生涯学習推進計画」（計画期間は、平成25年度から平成31年度まで）では、「いつでも」「どこでも」「だれでも」つなげよう

学び 公益の心 拓こう明日の酒田～学びの扉を開けてみよう～」をキャッチフレーズとし、次の3つの基本目標を定めています。

- ・『人づくり』・・・学びで高めよう公益の心
- ・『仲間づくり』・・・学びで広げよう仲間の輪
- ・『地域づくり』・・・学びの成果をつないで興そう地域コミュニティ

◆関連する主な施策の展開

- ・人材の活用と育成
- ・高度情報化等利用者ニーズへの対応
- ・乳幼児期：親子でのふれあいをはぐくむ機会の充実
- ・少年期：「生きる力」をはぐくむための学習機会の提供
- ・地域生涯学習関連施設の有効活用

④ 酒田市子ども読書活動推進計画

【子ども読書 × 酒田コミュニケーションポート】

平成28年3月策定の「酒田市子ども読書活動推進計画」（計画期間は、平成28年度から平成32年度まで）では、次の基本方針を定めています。

- ・幼少期に身に付けた読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援する

- 1 子どもたちの身近に本があること
- 2 子どもたちの身近に本に親しむ場所があること
- 3 子どもたちの身近にいる大人たちが、子どもと本をつなぐこと

その中で、新重点施策として「「読書手帳」を活用しよう」「「家読（うちどく）」をはじめましょう」を打ち出しています。

◆4つの施策体系

- ・家庭における読書活動の推進
- ・保育園・幼稚園等における読書活動の推進
- ・地域における読書活動の推進
- ・学校における読書活動の推進

⑤ 酒田市子ども・子育て支援事業計画（酒田っ子すくすくプラン）

【子育て × 酒田コミュニケーションポート】

平成27年3月策定の「酒田市子ども・子育て支援事業計画」（計画期間は、平成27年度から平成31年度まで）では、基本理念として、家庭、地域、社会が全体で、次のことを目指すとしています。

- ・すべての子どもが大切にされ健やかに成長できるまち
- ・子育てに喜びや生きがいを感じられるまち
- ・子どもを生み育てやすいまち

その上で、次の2つの目標を設定しています。

- ・【子どもの姿】 生きる力と豊かな心で たくましく未来をつくる 酒田っ子

- ・【まちの姿】 家庭 地域 社会 みんなで支え育むまち 酒田

◆関連する主な施策方針

- ・子どもと保護者の居場所づくりの推進
- ・子どもの生きる力の育成に向けた学校等の教育環境の整備
- ・家庭や地域の教育力の向上

⑥ 酒田市中長期観光戦略 **【観光 × 酒田コミュニケーションポート】**

平成 28 年 3 月策定の「酒田市中長期観光戦略」（計画期間は、平成 28 年度から平成 37 年度まで）では、次の 7 つの方針を定めています。

- ・「これなら人を呼べる酒田の“ウリ”」の確立
- ・既存観光資源のリノベーションと新たな観光資源の活用
- ・酒田の「オリジナル・ストーリー」の確立
- ・酒田の個性を光らせる「サブ・ストーリー（新酒田物語）」の創出
- ・地域の総合力を活かす
- ・庄内地域が連携して取り組む広域観光連携
- ・酒田の観光の魅力の発信

その上で、オリジナル・ストーリーを、“交易”と“公益”を 2 つの柱として、「K O E K I（交易と公益）のまち・酒田～港町文化とおもてなしのまち・酒田～」と設定し、酒田の「強み」である「歴史・伝統」「食・食文化」「自然景観」「公益と豪商」を 4 つのサブ・ストーリーとして設定しています。

なお、本戦略のスローガンは、「広めよう！“酒田自慢” 増やそう！“酒田ファン”」としています。

◆関連する主な取組み内容

- ・地域の商工関係者や市民を巻き込んで、地域の総合力を活かせる体制構築とプログラムづくり
- ・回遊性を高める観光ルートの創設（施策例として）
- ・街あるき観光の推進（施策例として）
- ・広域観光圏との連携
- ・地域プラットフォームの創設

⑦ 酒田市地域公共交通網形成計画

【公共交通 × 酒田コミュニケーションポート】

平成 28 年 7 月策定の「酒田市地域公共交通網形成計画」（計画期間は、平成 28 年度から平成 32 年度まで）では、「人と地域の交流を支える公共交通～市民とともに、持続可能な交通網を形成し、コンパクト＋ネットワークを実現～」を基本理念とし、「将来のまちの姿を見据えた持続可能な公共交通」「地域の交流・発展を支える

公共交通」「市民協働で取り組み、利用者目線で考える公共交通」の3つを基本方針としています。

◆関連する主な取り組み内容（重点事業）

- ・市街地における拠点の整備
酒田駅前付近・中町・日本海総合病院を市街地における主要拠点として位置付け、乗り入れの充実や交通機関同士の乗り継ぎしやすさの向上、快適な待ち合い環境の確保等を図ります。
- ・主要拠点間の交通ネットワーク充実
- ・交通拠点における接続性向上
- ・待合環境の確保
- ・観光バス車両の新たな活用

⑧ 酒田市公共施設適正化基本計画

【公施適正 × 酒田コミュニケーションポート】

平成27年3月策定の「酒田市公共施設適正化基本計画」（計画期間は、平成27年度から平成66年度まで）では、「量的マネジメントー施設総量の削減ー」「質的マネジメントーサービスの向上ー」「財政的マネジメントー運営等の効率化ー」を公共施設適正化マネジメントの3原則としています。

◆関連する主な施策方針

- ・施設の複合化・多機能化
- ・ひとや環境に優しい公共施設の実現
- ・公民連携等による経費の抑制

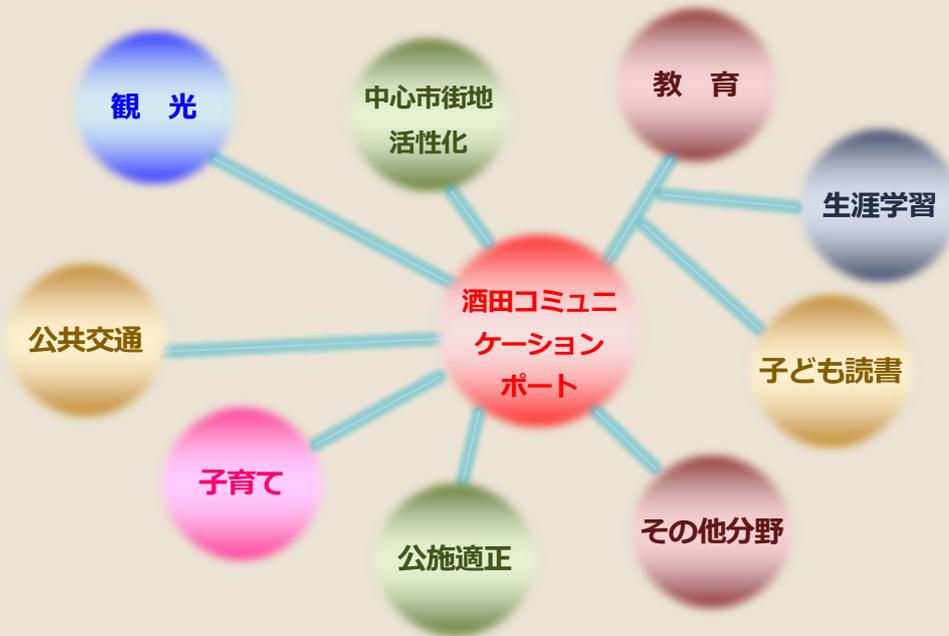
このほかにも、福祉・医療、スポーツや市民ボランティア、民間の経済活動等、様々な分野が活動されており、縦割りでない連携を図ります。もちろん、「選択と集中」の視点を持ちつつ、酒田コミュニケーションポートの運営を通じて本市の地域課題の解決に資していく必要があります。

将来の市の都市像（市総合計画）

酒田市まち・ひと・しごと創生総合戦略



連携し、つながって、本市の地域課題の解決に資する



4 本市の現状

(1) 地勢・交通

本市は、山形県の北西部、庄内地方の北部に位置し、北は秀峰鳥海山を望み、東は出羽丘陵を背にし、南はほぼ庄内平野の中央に達し、西は日本海に面しています。また、鳥海山から発する日向川、県を縦貫する母なる川最上川が、砂丘帯を貫き日本海に注いでいます。酒田沖の県唯一の有人離島・飛島は、鳥海山とあわせ鳥海国定公園に指定されています。

交通では、空路は庄内空港が、鉄道はJR羽越本線が通っています。また、高速道路は、日本海沿岸東北自動車道が、地域高規格道路では、新庄酒田道路が走っています。

酒田港は、県唯一の重要港湾、国際貿易港となっています。

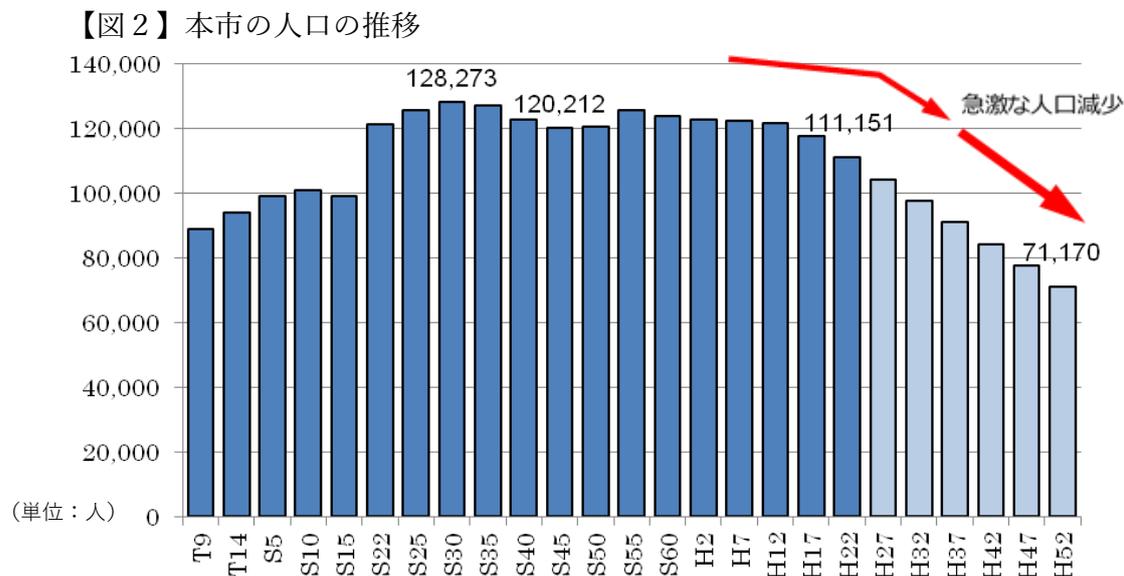
(2) 人口

本市の人口は、昭和30年（1955年）の128,273人をピークに減少し、昭和50年代に一旦回復したものの、その後は減少の一途をたどっています。

その中においても、酒田駅周辺地区を含む中心市街地内の居住人口は、全市の減少率よりも高い減少幅となっています。

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の推計によると、平成52年（2040年）には全市で71,170人となり、平成22年（2010年）に比べると36%の減少となっています。

本市が平成27年度に策定した人口ビジョンでは、平成52年（2040年）に86,000人程度、平成72年（2060年）に75,000人程度の人口が確保されるとしています。



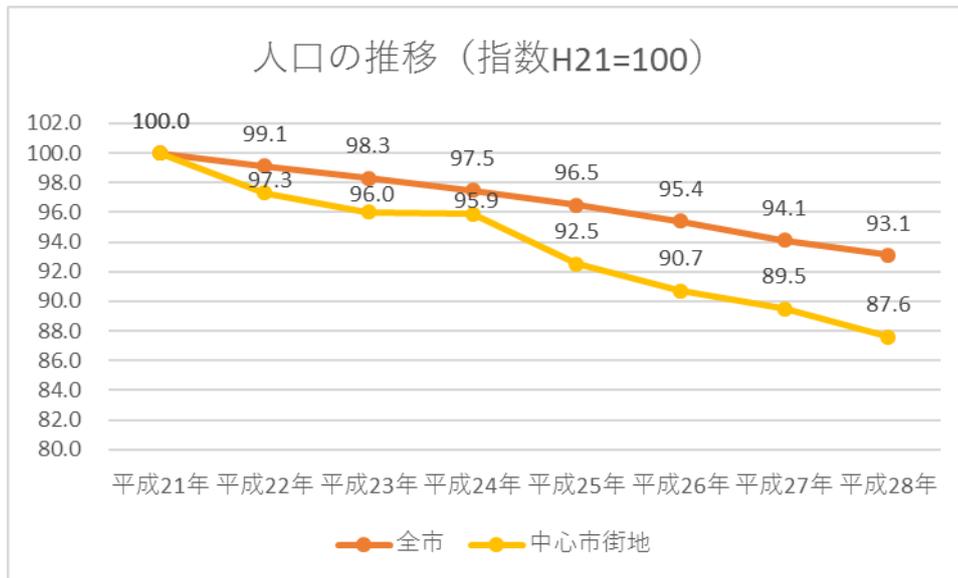
資料：「国勢調査」（総務省）、「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月、社人研）

【表1】全市と中心市街地の人口の推移

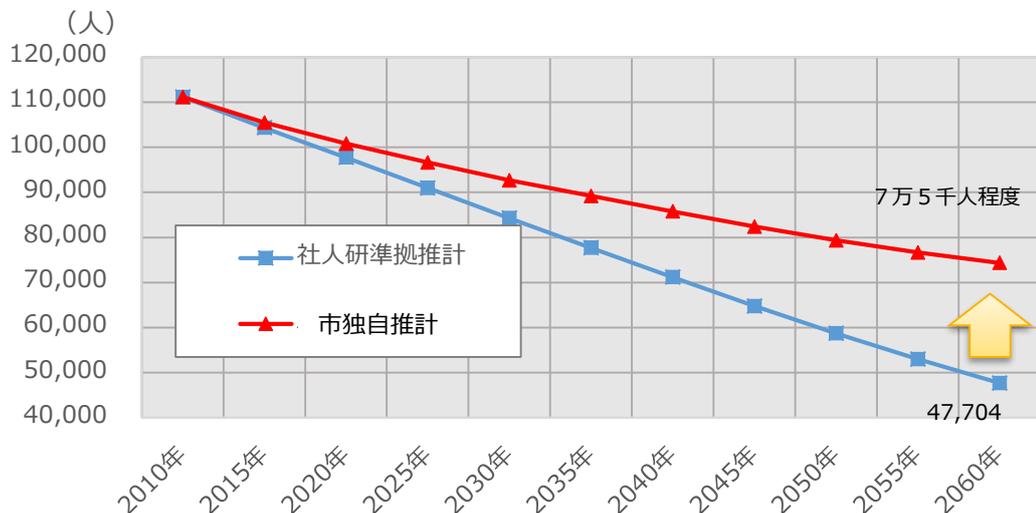
年次	全市		中心市街地		b/a(%)
	人口(a)	指数	人口(b)	指数	
平成21年	113,591	100.0	2,923	100.0	2.57
平成22年	112,587	99.1	2,844	97.3	2.53
平成23年	111,672	98.3	2,805	96.0	2.51
平成24年	110,771	97.5	2,803	95.9	2.53
平成25年	109,595	96.5	2,705	92.5	2.47
平成26年	108,335	95.4	2,651	90.7	2.45
平成27年	106,939	94.1	2,615	89.5	2.45
平成28年	105,708	93.1	2,562	87.6	2.42

資料：各年9/30現在の住民基本台帳

(注)中心市街地の範囲は、中心市街地活性化基本計画に定める範囲と同じ。



【図3】酒田市人口ビジョン (2015~2060)



(3) 歴史・文化

湊町・酒田の歴史は、徳尼公と秀衡の遺臣 36 騎により始まると言われています。

江戸時代には、河村瑞賢による西廻航路が開かれ、米の集積地・積出港となった酒田は大いに栄えます。北前船が往来する酒田には、全国から人や物が集まり、華やかな湊町文化が形成されました。

そうした繁栄の中から、「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」とまで謳われた豪商・本間家が生まれます。本間家三代当主・光丘は、防砂林の植林、庄内藩の財政再建、飢饉への備えなどに多大の功績を残しました。世のため人のためを思う「公益の心」は、今でも大切に受け継がれています。

近代に入ってから、港湾都市、米どころとして知られ、戦後は昭和 51 年の「酒田大火」も乗り越えてきました。平成 17 年には、酒田市、八幡町、松山町、平田町の市町が合併し、現在の新酒田市が誕生しています。

本間家の栄華は、本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫などに偲ぶことができます。江戸時代から続く酒田まつり、料亭の文化にも、湊を通して栄えた酒田の歴史と文化が色濃く残ります。

(4) 産業・観光

平成 22 年国勢調査に基づく産業別就業人口割合は、第 1 次産業 8.3%、第 2 次産業 25.3%、第 3 次産業 63.2%となっております。

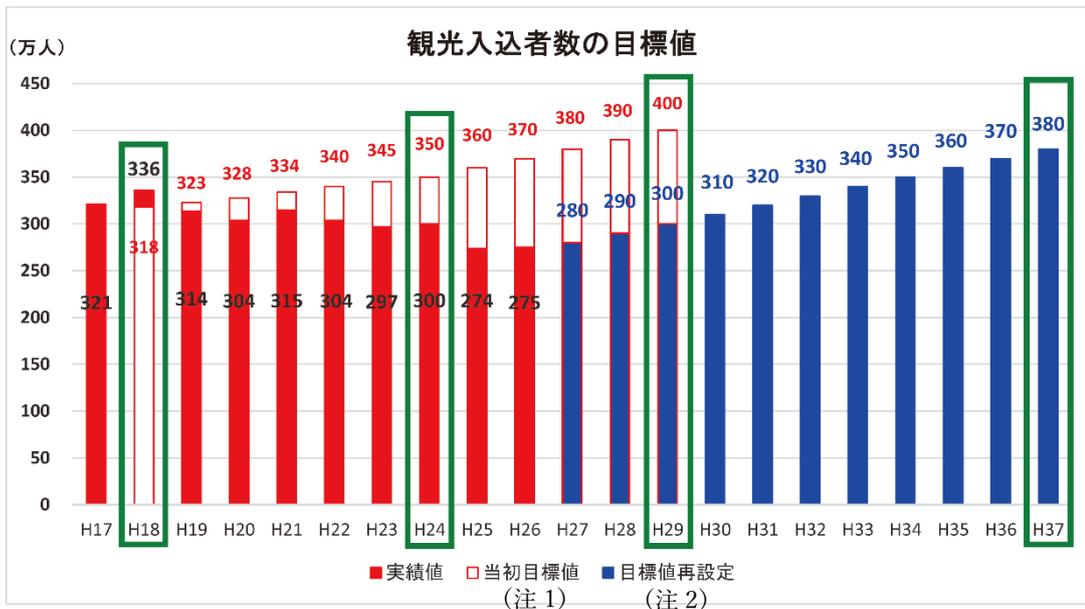
農産物、海産物が豊富で、庄内米、刈屋梨、メロン、いちご、平田赤ねぎ、寒鱈、紅えび、トビウオ、岩牡蠣、イカなど、特産品には枚挙にいとまがありません。全国的に高い評価を受けている日本酒や、酒田のラーメンも、酒田名物として全国に知られるようになりました。さかた海鮮市場、みなと市場等の市内各所で、これらの食を堪能することができます。

観光資源としては、本間家ゆかりの本間家旧本邸、本間美術館、光丘文庫（平成 28 年 10 月現在閉館中）のほか、湊の栄華が偲ばれる山居倉庫、独特の雅な文化が残る相馬樓や山王くらぶ、郷土の偉人を顕彰する土門拳記念館などがあります。

観光入込者は、平成 26 年時点では、平成 17 年に比べ、庄内地域全体は増加しているものの、本市は約 14%減少している状況です。中長期観光戦略に基づき各種施策を展開し、平成 37 年度には 380 万人を目指していきます。

平成 28 年 9 月には「鳥海山・飛鳥ジオパーク」の日本ジオパークネットワークへの加盟が認められ、ジオ・ツーリズムなどとともに「酒田の成り立ち」への注目が今後、高まることが期待されます。また、国内外のクルーズ客船誘致にも力を入れています。

【図4】観光入込数の目標値



(注1) 酒田市観光基本計画（平成20年3月策定）による目標値
 (注2) 酒田市中長期観光戦略（平成28年3月策定）による目標値

(5) 教育

本市には、市立小学校が25校（飛鳥小学校が平成28年10月5日で休校）、市立中学校が8校、高等学校（県立及び私立）が6校（通信制を含む）、特別支援学校が1校、大学・専修学校が3校あります。そのうち、小学校の5校が改編の対象となっており、平成29年度には22校となる予定です。

平成27年5月1日現在では、児童・生徒数は、小学生が5,125人、中学生が2,925人、高校生が3,102人となっております。

社会教育施設・文化施設として、総合文化センター、出羽遊心館、公益研修センター、市立資料館、旧鑑屋、市美術館、酒田海洋センター、松山文化伝承館、松山城址館、ひらた生涯学習センター等です。

子育て支援関連施設としては、平成28年度では、認可保育所が31カ所、認定こども園が3カ所、幼稚園が6園あります。

(6) 広域圏形成

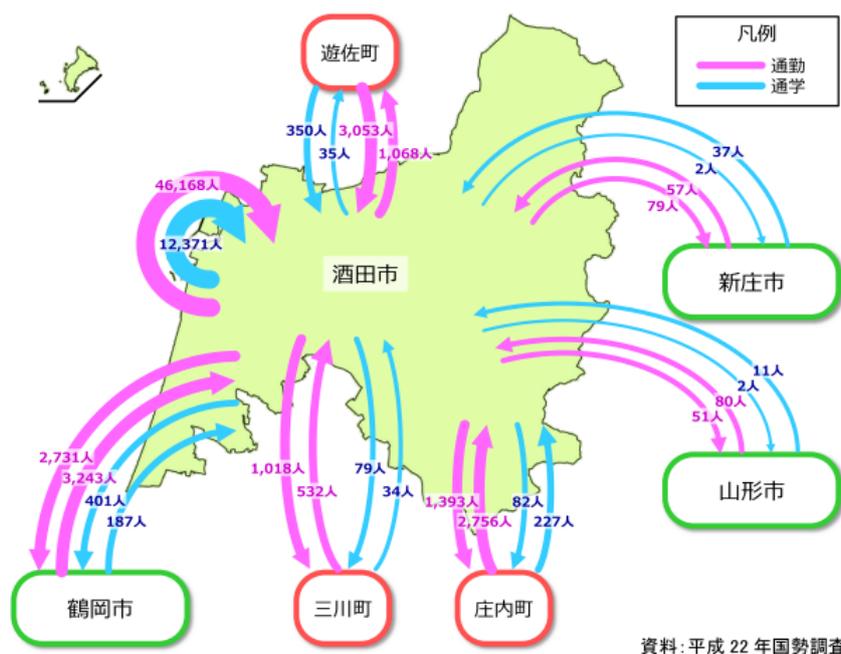
本市は、平成27年3月に三川町、庄内町、遊佐町とともに、「庄内北部定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

本市は、「庄内北部定住自立圏」の中心市として、「定住に必要な都市機能の整備・提供や生活機能の確保・充実に努めるとともに、地域資源を活かした振興策に取り組み、圏域全体の活性化と圏域住民が安心して暮らせる魅力ある圏域の形成を図る」ことを役割としています。

観光圏としても、高速道路のミッシングリンクの早期解消や、羽越本線、陸羽西線の高速化、新幹線延伸等の可能性を踏まえながら、交流人口の拡大が想定されます。「鳥海山・飛島ジオパーク」における連携の推進も期待されています。

こうした生活圏や観光圏の拡大は、中心市街地の活性化にも大きく寄与することが期待されます。

【図5】通勤・通学流動



【表2】商圈

項目	商品総合	外食	レジャー・娯楽
第1次商圈 (吸引力 30%以上)	酒田市 遊佐町	酒田市 遊佐町 庄内町	酒田市 遊佐町
第2次商圈 (吸引力 15%以上 30%未満)	庄内町		庄内町
第3次商圈 (吸引力 5%以上 15%未満)		三川町 鶴岡市	三川町 鮭川村

資料：平成 24 年度山形県買物動向調査

5 市立図書館・酒田駅前観光案内所の現状・課題

(1) 市立図書館

現中央図書館は、昭和 57 年に総合文化センター内に設置されました。延床面積は 1,449.33 m²となっております。

市立図書館全体の主要統計指標の推移は、表 3 のとおりとなっております。

蔵書冊数は伸び、登録者数も大きな変化がないにもかかわらず、館外貸出人数及び館外貸出冊数は頭打ちであり、直近の 5 年間では減少に転じています。

同様に減少で推移しているのは、入館者数です。館外貸出者数と入館者数は、同じような下降線をたどっています（表 3 参照）。蔵書の増加が来館増に結びつかず、入館者の減少＝貸出者数の減少だとすると、図書館は来館者を増やすために、新たなサービスの開発等の方策を検討する必要があります。

人口規模の近い国内の 14 自治体の図書館統計と比較したのが、表 4 です。

本市は、蔵書密度（人口一人当たりの蔵書数）、貸出密度（人口一人当たりの貸出数）ともに平均を下回っており、本館の占有延床面積では最も狭くなっています。図書館サービスの充実に向けた方策の検討が求められます。

【表 3】市立図書館の主要統計指標の推移（単位：冊、人）

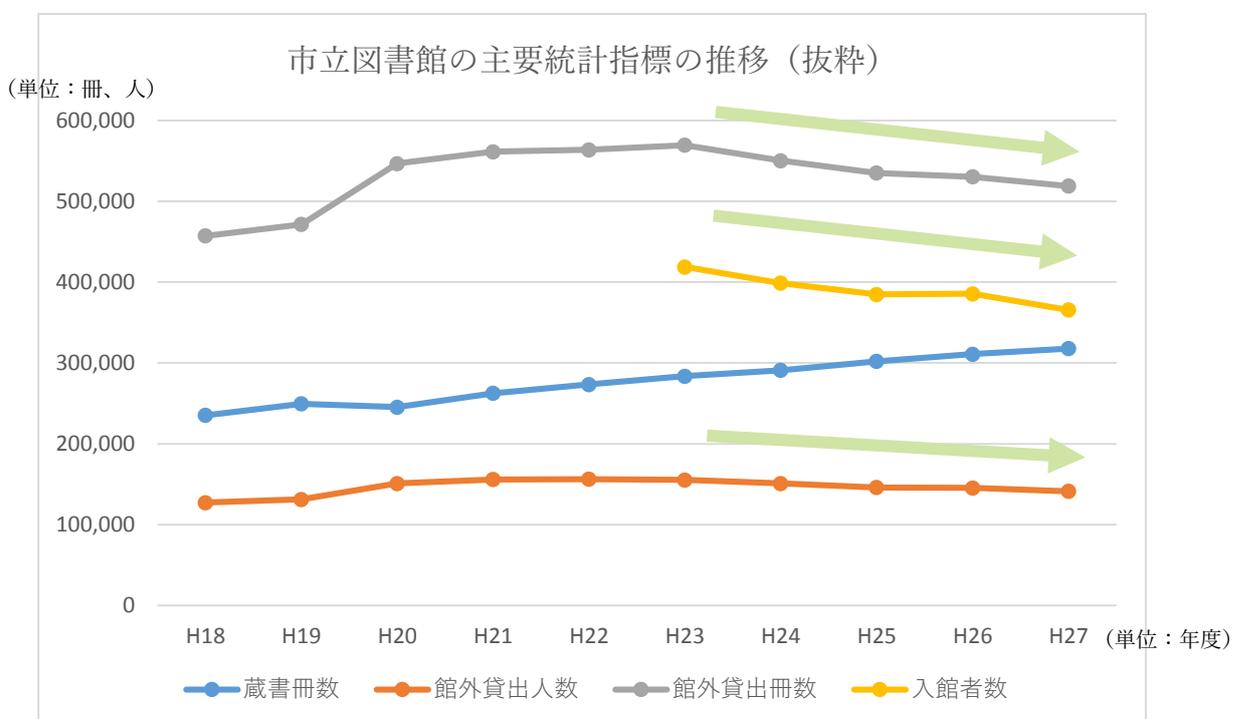
指 標	H18	H19	H20	H21	H22
有効登録者数	19,796	17,516	17,483	18,255	17,327
蔵書冊数	235,258	249,469	245,359	262,572	273,357
館外貸出人数	127,161	131,126	150,842	155,889	156,330
館外貸出冊数	457,324	471,662	546,768	561,434	563,882
入館者数	—	—	—	—	—
1 日当たりの館外貸出人数	370.7	386.8	437.2	450.5	458.4
1 日当たりの館外貸出冊数	1,333.3	1,391.3	1,584.8	1,622.6	1,653.6
1 人 1 回当たりの館外貸出冊数	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6
人口 1 人当たりの館外貸出冊数	3.9	4.1	4.8	5.0	5.0
人口 1 人当たりの入館者数	—	—	—	—	—
登録率	15.3%	15.3%	15.3%	16.2%	15.5%
蔵書回転率	1.9	1.9	2.2	2.1	2.1

指 標	H23	H24	H25	H26	H27
有効登録者数	17,239	17,056	16,862	16,403	18,796
蔵書冊数	283,663	290,962	301,974	310,972	317,840
館外貸出人数	155,163	150,826	145,955	145,364	141,195
館外貸出冊数	569,505	550,436	535,245	530,560	519,019
入館者数	418,750	398,895	384,886	385,639	365,638
1日当たりの館外貸出人数	447.2	439.7	431.8	422.6	421.5
1日当たりの館外貸出冊数	1,641.2	1,604.8	1,583.6	1,542.3	1,549.3
1人1回当たりの館外貸出冊数	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7
人口1人当たりの館外貸出冊数	5.1	5.0	4.9	4.9	4.9
人口1人当たりの入館者数	3.78	3.63	3.54	3.59	3.44
登録率	15.6%	15.5%	15.5%	15.3%	17.7%
蔵書回転率	2.0	1.9	1.8	1.7	1.6

資料：図書館の概要（酒田市教育委員会発行）

（注1）蔵書冊数、貸出人数及び貸出冊数には、光丘文庫分は含まれず、中央図書館、八幡分館、松山分館及びひらた図書センターの合計となります。

（注2）入館者数には、松山分館及び光丘文庫分は含まれず、中央図書館、八幡分館及びひらた図書センターの合計となります。



【表4】人口近似自治体の図書館における蔵書密度及び貸出密度の比較

(単位：人、㎡、冊)

県	市	人口	本館専有 延床面積	蔵書数	蔵書 密度	貸出数	貸出 密度
福岡県	筑紫野市	102,228	2,213	270,000	2.64	677,000	6.62
新潟県	三条市	102,489	2,233	342,000	3.34	461,000	4.50
大阪府	池田市	102,964	2,512	347,000	3.37	683,000	6.63
長野県	飯田市	105,549	2,507	737,000	6.98	770,000	7.30
岡山県	津山市	105,557	3,229	441,000	4.18	561,000	5.31
鹿児島県	鹿屋市	105,607	2,073	194,000	1.84	330,000	3.12
埼玉県	富士見市	108,469	4,464	486,000	4.48	609,000	5.61
石川県	小松市	108,980	1,840	250,000	2.29	389,000	3.57
山形県	酒田市	109,358	1,449	324,000	2.96	529,000	4.84
茨城県	筑西市	109,563	4,673	375,000	3.42	379,000	3.46
茨城県	取手市	109,595	1,528	341,000	3.11	658,000	6.00
千葉県	鎌ヶ谷市	109,695	1,634	301,000	2.74	377,000	3.44
埼玉県	ふじみ野市	110,121	2,772	529,000	4.80	909,000	8.25
福岡県	春日市	111,702	2,632	309,000	2.77	792,000	7.09
平均		107,277	2,554	374,714	3.50	580,286	5.41

資料：日本の図書館 2015（日本図書館協会発行）

(注1) 本市の本館は、中央図書館を指します。

(注2) 蔵書数及び貸出数は、それぞれ本館、分館等を含めた総数です。本市の場合は、光丘文庫分も含まれます。

(2) 酒田駅前観光案内所

現在の酒田駅前観光案内所は、J R酒田駅構内の一角、8.9㎡を賃借して設置されており、市が（一社）酒田観光物産協会に委託して運営されています。

案内件数などの推移は、次のとおりです。

年度	酒田駅前観光案内所利用数（単位：件、人、台）				予約ガイド利用数	
	案内件数	案内人数	内外国人	自転車 貸出台数	団体数	団体人数
H24	11,936	16,826	213	4,710	110	2,519
H25	11,092	15,758	220	4,080	168	3,255
H26	12,447	17,211	313	5,027	131	2,229
H27	12,297	16,857	401	4,900	124	2,712

案内件数は、ほぼ横ばいですが、外国人への案内が増加しています。しかし、現

在は外国人観光客への対応は困難であり、窓口の狭隘さ、運営を実際に担っているガイド協会会員の高齢化などが課題となっています。

6 市民意見等の状況

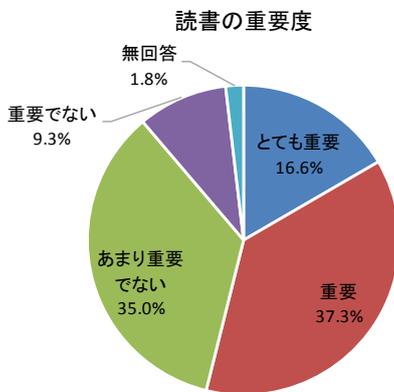
平成 28 年度に実施しました市民アンケート調査結果等については、次のとおりとなっております。詳細については、資料編に掲載しています。

(1) 市民アンケート調査結果

- ・ 調査期間 平成 28 年 8 月 1 日～同年 8 月 22 日
- ・ 回収サンプル数 869 件

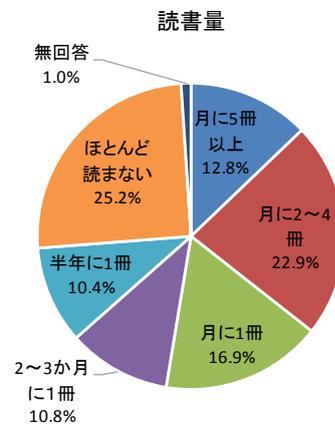
① 読書に関する状況について

ア 読書の重要度



重要度が高いと考えている層が、5割以上を占めました。

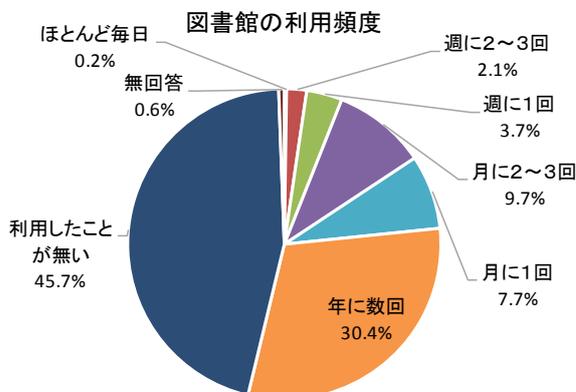
イ 読書量



月2冊以上読む人と、ほとんど読まないとがそれぞれ4分の1以上あり、ばらつきが見られました。

② 現在の中央図書館（児童図書室を含む）について

ア 利用頻度



全体的に図書館利用経験が、少ないことが分かりました。

イ 利用目的（上位5つの回答）

利用目的	件	割合
図書を借りるため	331	70.1%
気分転換、リフレッシュするため	161	34.1%
館内での図書、新聞等を閲覧するため	154	32.6%
宿題、勉強をするため	111	23.5%
子ども等の付添いのため	68	14.4%

図書を借りる以外にも、特に目的が無くとも気軽に行ける場所という捉えられ方をしていることも伺えます。

ウ 利用しない理由(上位5つの回答)

利用しない理由	件	割合
本は購入して読んでいる	169	42.6%
本をあまり読まない	132	33.2%
忙しくて行く暇がない	123	31.0%
自宅や学校、勤務先から遠い	92	23.2%
場所や利用の仕組みが分からない	81	20.4%

エ 充実してほしいもの(上位5つの回答)

充実してほしいもの	件	割合
居心地の良い空間	450	51.8%
書籍、雑誌等の充実	396	45.6%
交通の利便性・駐車場の充実	270	31.1%
インターネットや Wi-Fi 環境の充実	223	25.7%
書籍、雑誌、資料等の探しやすさ	211	24.3%

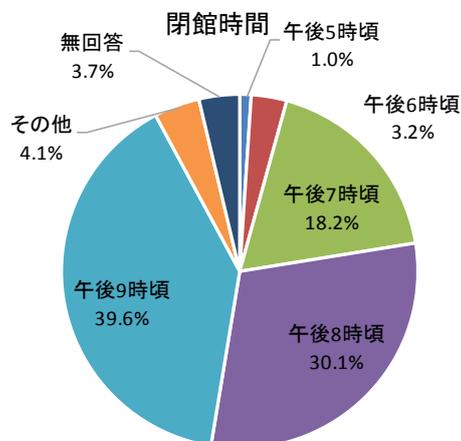
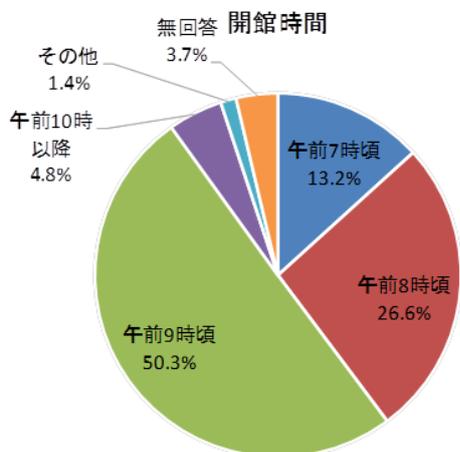
③ 酒田コミュニケーションポート (仮称) について

ア ライブラリーセンターで何ができれば良いか (上位5つの回答)

何ができれば良いか	件	割合
目的がなくても気軽に立ち寄れる	429	49.4%
くつろぎながら読書ができる	286	32.9%
飲食ができる	273	31.4%
仕事、学校帰りに気軽に立ち寄れる	258	29.7%
静かな部屋で調査や自習ができる	211	4.3%

多様な使われ方が、求められていると想定できます。

イ ライブラリーセンターの開館時間・閉館時間



ウ 広場で何ができれば良いか
(上位5つの回答)

何ができれば良いか	件	割合
休憩ができる	430	49.5%
飲食ができる	424	48.8%
イベントの開催	410	47.2%
待ち合わせや談話ができる	361	41.5%
緑を感じることができる	328	37.7%

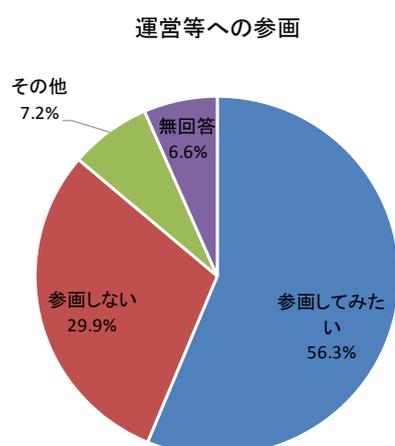
エ 駅前への交通手段は何ですか
(上位5つの回答)

交通手段	件	割合
自動車	603	69.4%
自転車	181	20.8%
バス	100	11.5%
徒歩	84	9.7%
電車	38	4.4%

オ 観光情報センターに求めるサービス (上位5つの回答)

求めるサービス	件	割合
休憩ができる (カフェ等を含む)	418	48.1%
お土産品の充実	380	43.7%
インターネットやWi-Fi環境の充実	190	21.9%
ライブラリーセンターの地域情報資料を活用しての情報発信	137	15.8%
バーチャル映像等による歴史、文化、自然の紹介	135	15.5%

カ イベント企画や施設運営等への参画



「その他」でも、内容による、時間が合えば、という回答が多くあり、関心は高いことが伺われた。

④ クロス集計分析

ア 図書館を利用したことが無い市民の分析

- ・読書の重要度や読書量が全体より低く、図書館を利用しない理由も本を読まない、購入する割合が高い。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについては、蔵書の充実より、気軽に立ち寄れる、飲食ができるという回答割合が全体より高い。
- ・イベント企画や施設運営等への参画も「してみたい」という回答が多く、きっかけさえあれば、参画する意欲はあると考えられる。



- 蔵書の充実では、利用者には結びつかない層である。
- 気軽に立ち寄れるきっかけ（イベント、居心地の良い空間等）があれば、利用者になる可能性がある。
- イベント企画や施設運営等に参画する意欲が高いため、その場づくりが利用者となるポイントである。

イ 中学生、高校生、専門学校生・大学生及び20歳代の分析

- ・年齢が上がるにつれ、読書の重要度が低くなっている。読書量では、ほとんど読まないという回答が、特に高校生に多く見られた。
- ・図書館を利用しない理由として、アクセスの悪さ、時間がない、本は購入して読んでいるという回答が高くなった。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについては、「目的がなくても気軽に立ち寄れる」「飲食ができる」が共通して支持があった。
- ・イベント企画や施設運営等への参画も「してみたい」という回答が多く、特に、10歳代は、世代間で最も高く、参画する意欲はあると考えられる。



- 中学生から高校生への過程で、読書の習慣を持続させる取組が必要である。
- 蔵書以外の施設の魅力を持たせる必要がある。
- 施設へのアクセスの改善が求められる。
- 飲食ができ、目的がなくても立ち寄れる気軽さづくりが、若者たちの居場所となるためには必要である。
- イベント企画や施設運営等に参画する意欲がとて高いため、その場づくりが利用者となるポイントである。

ウ 午後9時頃の閉館希望者の分析

- ・年齢では、10歳代～50歳代で支持が最も多くなっている。60歳代では2番目、70歳以上では3番目に下がる。

- ・職業別では、午後9時頃と回答した人の37.5%を会社員が占める。
- ・図書館の利用頻度が低い人が、回答者の78.8%を占める。
- ・図書館で充実してほしい機能として、「利用しやすい開館日・開館時間」「インターネットやWi-Fi環境の充実」と回答した人の半数以上が選択している。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかについて、「飲食ができる」と回答した人の約半数が選択している。



- あまり利用していない層が来館するきっかけの一つとなり得る。
- 午後9時頃まで開館していれば利用しやすいと感じる人が多く、インターネットやWi-Fiが使える、飲食ができれば、さらに利用動機が高まる。

エ 図書館の定期的利用者（月に2～3回以上利用すると回答した方）の分析

- ・女性が70.6%を占めている。年代は40歳代（23.5%）、10歳代（22.8%）、60歳代（13.2%）の順に多くなっている。
- ・読書の重要度が高いと考えている人が87.5%、本を月に2冊以上読む人が72.1%を占めている。図書館の利用目的も「図書を借りるため」が84.6%、図書館で充実してほしい機能も「書籍、雑誌等の充実」が62.5%に上る。
- ・ライブラリーセンターで何ができれば良いかでは、「静かな部屋で調査や自習ができる」「くつろぎながら読書ができる」の回答割合が全体より5ポイント強上回っている。
- ・一方で、図書館で充実してほしい機能で「居心地の良い読書空間」、ライブラリーセンターで何ができれば良いかで「目的がなくても気軽に立ち寄れる」が「くつろぎながら読書ができる」よりも10ポイント高い。



- 本や読書に関するニーズが高い層である。
- 資料の充実、静かな読書環境が図書館に求められている。
- 現在の図書館でもニーズには、一定程度応えていると考えられるが、この層からも居心地の良い空間、目的がなくても気軽に立ち寄れる雰囲気なども求められていると言える。

⑤ アンケート結果からの考察

以上の結果を踏まえ、酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画を策定するあたり、検討するにあたってのポイント（視点）は、次のとおりです。

- 図書館利用経験が全体的に少ない。

- 「場所や利用の仕組みが分からない」という市民も2割を超えている。
- 観光の面では、お土産品の充実の声が多い。
- 駐車場の充実、アクセスの改善を求める声が多い。
- 子ども連れや高齢者、障がい者が利用しやすい、若者が集えるような施設にしてほしいという回答が多い。
- イベント企画や施設運営等への参画意欲が高い。



- 新しい機能（カフェ、飲食可能、Wi-Fi環境等）をもつライブラリーセンター
- 施設の積極的なPR活動、情報発信の充実
- お土産品の充実の声が多く、地元企業等と連携した販売方策の検討
- 公共交通の充実の検討
- 開館時間の延長
- 対象別（世代別等）の方策、住み分けを意識した施設づくり（ゾーニング）の検討
- 市民参加の場面を組み込んだ施設の運営のあり方の検討

(2) 高校生アンケート調査結果

- ・調査期間 平成28年8月25日～同年9月1日
- ・回収サンプル数 694件

① 通学途中や休みの日等に、利用しやすい、利用したくなる駅前公共施設となるため、必要な機能、スペース、設備、サービス等（上位5つの回答）

必要な機能等	件	割合
インターネットやWi-Fi環境の充実	500	48.1%
自由に飲食できるスペースがほしい	405	43.7%
勉強できる場所の充実	264	21.9%
友人と雑談しながら、本を読める場所	182	15.8%
屋外でも休憩できるようなテラスやベンチの設置	176	15.5%

※マンガをたくさん置いてほしい（男性の回答で上位）



図書資料や読書スペースの充実 < 交流・滞在型の機能

② 主な自由意見

- ・カフェが欲しい（価格設定や雰囲気で中高生が入りやすいようなカフェ）
- ・買い物ができる場所や友人と遊べる場所が欲しい
- ・静かにするスペースと賑やかにできるスペースを分けて欲しい（目的によって使用するスペースを変えたい）

一人でゆっくり静かに過ごす < 友人等と交流できる場所

図書資料や読書スペースの充実に直接つながるものよりも、交流・滞在型の機能を求める傾向が強く見られました。

唯一、属性比較で傾向が違ったのが男性で、「マンガをたくさん置いてほしい」が上位5つの中に選択されています。

自由意見の傾向からは、一人でゆっくり静かに過ごすよりも、友人等と交流できる場所を求めていることがわかりました。

(3) 市民ワークショップ結果

回	テーマ	日時	場所	参加者数
1	新しい施設に必要な機能、欲しい機能を考えよう	・平成28年9月22日（木） ・9:30~12:30	交流ひろば 1階	30
2	酒田らしさを施設に活かそう	・平成28年10月2日（日） ・9:30~12:30	同上	24
3	新しい施設の使い方を考えよう	・平成28年10月22日（土） ・13:00~16:00	同上	19



① 第1回のまとめ

「新しい施設に必要なと思う機能、欲しいと思う機能」について、「ライブラリーセ

ンター」「観光情報センター」「カフェ」「広場・駐車場・バスベイ」の4つのカテゴリごとにアイデアを書き出し、ディスカッションを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

○ライブラリーセンター

機能	アイデア
勉強・仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード付の自由に使われる会議室、打合せスペース ・ビジネス支援コーナー（就業や企業に役立つ情報と書籍）
サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・本の宅配貸し出しサービス、郵便で返却できる ・他図書館の本も借りられるシステム ・お勧めの本を紹介してくれるサービス ・小中学生の宿題や自由研究のサポートをしてくれるボランティア ・コンシェルジュの設置
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・快適なトイレ ・ちょっとした買い物ができる機能を併設 ・固定イスでなく自由に変えられる小スペース

○観光情報センター

機能	アイデア
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi 機能
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報誌にない観光情報の提供 ・観光ガイドの強化（ガイド養成） ・郷土芸能、文化、歴史がわかる展示施設
買い物	<ul style="list-style-type: none"> ・地酒を試飲できてその場で購入できる ・地元食材、郷土料理の実演販売 ・お土産品（食品）を販売しているスペース

○カフェ

機能	アイデア
メニュー	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消のメニュー
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の飲食店とのコラボイベント開催
使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち込みオーケー ・機材（ホワイトボード等）を貸し出すサービス ・Wi-Fi の導入 ・平日の仕事後も使える営業時間 ・携帯やノートパソコンが充電できる
雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子供と気軽に入れる ・ゆったりくつろげるスペース ・ペットを連れて行けるカフェ ・若者が集まる、かわいい、きれいと思えるような商品やデザイン ・昼と夜の営業で違った雰囲気を出してほしい

○広場・駐車場・バスベイ

機能	アイデア
広場	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fiの導入 ・夜はミニライブできる場所 ・小さい子供が遊べる ・季節の花が咲く ・バーベキューやスポーツのできるスペースの確保 ・芝があり、転がって遊べる
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場のマークの表示をわかりやすく ・マンション駐車場と外部から駐車する場所を分ける ・低料金（無料）で広く、停めやすい駐車場 ・雨風に当たらないで施設に行けて、融雪設備がある
バスベイ	<ul style="list-style-type: none"> ・電車、バスの出発前の全館アナウンス ・高齢者や体が不自由な人も便利に誰でも使えて見やすいバス停の時刻表 ・休憩スペース

② 第2回のまとめ

「酒田のアピールポイント」について、「食」「自然」「歴史・伝統」「観光スポット」「その他」の5つのカテゴリごとにアイデアを書き出し、アピールポイントを施設に活かす方向性として、「情報発信」「イベント」「デザイン」という3つのテーマでまとめを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

テーマ	実施場所	アピールポイント
イベント	ライブラリーセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内の四季の映像を流し、山居倉庫、北前文化（主に酒田の歴史）について知るイベント ・本間家や光丘の歴史的発進、地域文化人の紹介、地域文化のデジタル化による紹介 ・光丘文庫のできた日を酒田市立図書館の記念日としてイベントを開催
	観光情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に出張してもらおう出張観光
	広場	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの学びと結び付けられるような自然体験型イベント ・酒田の特産フェア（広場で屋台（ラーメンや芋煮など）を出したり、民族芸能のステージを作ったり、祭りのような雰囲気です）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けイベント
情報発信	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ・映像で食を発信（五感で感じる） ・サイネージやプロジェクションマッピングで季節毎の情報発信 ・屋上デッキを設ける（視覚利用しての情報発信） ・SNSを利用

	ライブラリーセンター	・酒田市に関する観光図書センターの設置
	観光情報センター	・酒田見所カレンダーの掲示 ・アウトドアレジャー窓口への誘導 ・タブレット端末の設置
	広場	・祭りやイベント(ラーメンや酒など)の拠点となる場所にする
	駐車場・バスベイ	・駐車券にQRコード(市のHPやガイドなどにアクセスできる、有料広告で収入確保)、利用回数に応じての割引サービス ・サイネージでの乗換案内
デザイン	施設の外観	・吉野弘の詩を壁に書いたり、土門拳の写真を貼ったり、酒田の著名人の作品をどこかに取り入れる ・屋根を山並みや波に見立てたデザインにする ・酒田の名物・名産(北前船等)をモチーフにしたモニュメントの設置
	内装	・一部に木の感触を味わえるような東屋を作る
	企画	・酒田を知るコーナーを設置する(最上川や山居倉庫、ラーメン等)

③ 第3回のまとめ

①必要と思う場所・機能②なぜ必要なのかの理由③必要と思う場所や機能の具体的な使い方、を個々に書き出し、それらアイデアを「学びの場」「子育ての場」「情報発信の場」「交流の場」「その他」というテーマでグルーピングし、さらに具体的な場をイメージしながらまとめを行いました。出された主な意見は、次のとおりです。

テーマ	アイデアのまとめ
学びの場	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田の歴史や魅力について深く知れて、酒田を好きになれる ・光丘文庫の残っている本の閲覧とアーカイブ(本の説明、DVDの録画のアーカイブ)ができる ・学生が時間を有効利用できて使いやすい場にする ・さまざまな読みたい本のニーズに応えられる ・「ひとり」と「みんな」を自在に使える(一人で集中する、みんなで作業するスペースの棲み分け) ・生活の利便性の向上を学べる場
子育ての場	<ul style="list-style-type: none"> ・児童+ジュニアコーナー(おしゃべり、泣いても気にしないで利用できる場) ・親子連れが気軽に立ち寄れて、どちらも楽しめる ・「公園デビュー」に代わる「〇〇デビュー」ができる ・小さい子が安心して遊べる場 ・子育て情報を共有し相談できる場
情報発信の場	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信できる掲示板(サイネージ) ・人を集めたい、発信したい人のための部類分けをして、明確な発信ができる

	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田らしさを発信する（市民にも！観光客にも！） ・観光情報センターとの連動 ・地元と来訪者の口コミが行き交う
交流の場	<ul style="list-style-type: none"> ・有料の会議室、学習室（個室）の設置 ・軽食の持ち込みができる ・読書だけに限らず、多目的に使用できる ・おしゃべりができたり、くつろげたりできるスペースの設置（観光客も市民も） ・おいしくて、おしゃれで、落ち着けるカフェの設置 ・集客イベントのできる場+駅前の「交流」の拠点
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに応える場（サイレントルーム、オープンな学習スペース） ・返却ポスト（ドライブスルー、駅返却ポスト etc.） ・観光みやげを買える所（簡単な情報の発信） ・「いつ」でも「誰」でも使いやすい（例えば、夜間返却、荷物預かりサービス） ・夜遅くまでの営業時間

(4) 高校生ワークショップ結果

県立酒田光陵高等学校生徒によるワークショップを、東北公益文科大学学生の協力のもと、平成28年10月7日に行いました。

高校生が図書館に行かない理由として、「話せるスペースがない」「まじめな場所、堅苦しいというイメージ」「求めている本がない（漫画、新刊本など）」「飲食ができない」「携帯が使えない」「遠い」などの意見がありました。

図書館に何があったらよい（行く）かについては、「携帯が使える、充電ができる」「Wi-Fiの設置」「飲食ができる。そのための売店やカフェ」「世代に合わせた本の充実」「図書館自体をおしゃれに」「酒田の特産品を使った地産地消する図書館」「話せる場所と静かな場所を分ける」「休める場所、個室」「図書館で欲しい本を見つけたら本屋ですぐに買える」「運動ができる」「買い物ができる」「映画館」「文具店」「音楽が流れている」「イベントスペース」「動物と触れ合える」など、多彩なアイデアが出されました。



(5) 各団体等意見交換結果

○意見交換実施団体等

- ・子育てママさん
- ・読み聞かせボランティア（あさの葉会）
- ・酒田商工会議所情報 サービス部会
- ・読み聞かせボランティア（絵本の部屋）
- ・（社）子どもの読書サポートアシード
- ・コワーキングスペース__アンダーバー利用者、コンシェルジュ
- ・松陵学区コミュニティ振興会
- ・障がい者福祉会
- ・東北公益文科大学 学生
- ・点字読書会
- ・市老人クラブ連合会

施設	カテゴリ	意見（一部抜粋）
ライブラリーセンター	児童図書室について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが騒いでも大丈夫なような雰囲気だといい。 ・ドライブスルーみたいに車から降りずに本を返却できると便利である。 ・子供が図書館に本を返しに行ったら、お話をしているのに気付いて途中で参加できる動線を確認したい。 ・本棚などを置いていないシンプルな読み聞かせ部屋だと、子供が目移りせずに集中できる。
	空間、動線関係	<ul style="list-style-type: none"> ・静かに本を読みたい大人と、子供のお話会をするスペースの住み分けをうまくしてほしい（ソフトバリアードが理想）。 ・（視覚障がい者のための）凸凹が少ない室内用の誘導ブロックを、人がよく通る入口やトイレの近くに導入を検討してほしい。 ・多目的な部屋がほしい（音訳図書の読み聞かせや研修室などに利用）。
	蔵書・配置	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本と小説の境目がわかりづらいところがある。 ・録音図書の充実。視覚障がい者だけでなく、目が悪くなって活字を読むのがつらい高齢者など様々な立場の人に活用することができる。 ・作家ごとの本の配列だと探しやすい。
	サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の仕事は専門職であり、サービス業のため、人材の充実や教育が大事だと思う。魅力的な本を魅力的に紹介できる必要がある。 ・飲食スペースがほしい。 ・借りた本が気に入ったら購入できるといい。 ・司書や利用者のおすすめ本を紹介する。 ・貸出本のランキングコーナーを設置する。 ・利用者の調べ物のサポートを充実する。 ・本の作者のトークショーがあるといい。 ・ホワイトボード等に企画展示の紹介をしたり、積極的にポップを作成したりする。

	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・流行っている本を学校図書と市立図書館のどちらかが持つという連携があればいい。 ・ブックスタートの取り組みをしているが、家で読み聞かせ（家読）や図書館、学校での取り組みも大事になってくる。 ・公共図書館と点字図書館が連携して、点字図書等の情報提供をしてもらいたい。 ・酒田市にゆかりのある人の本を観光情報センターにも置く。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・いまの利用者の現状は、文化センターで活動する人がついでに図書館も利用するという人が多いので、駅前に移行することでの人の流れや利用の便が変わる不安や戸惑いがある。 ・（視覚障がい者のために）音声案内があればと思う。 ・（聴覚障がい者のために）字幕が写る電光掲示板が欲しい。図書館を利用している聴覚障がい者多いが、本に夢中になっていると周りの変化に気づきにくい。災害等が起こった時に電光掲示板で文字が光ってお知らせしてくれるといい。 ・図書館は高齢者の居場所という役割もあるし、現在の図書館を好きで利用している人も大事にしてほしい。 ・SNSの積極的な活用（司書紹介、イベントや利用サービスの周知等）をする。 ・HPで司書の自己紹介ページ（顔や専門分野、好きな本等）を作り、利用者が行きやすくなるよう顔が見える図書館になってほしい。
観光情報センター	観光・食	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田は海鮮という割に、海鮮市場に行くまでが大変（交通手段も含めて）。駅前で酒田の海産物を取り入れたお弁当の販売があるといい。
	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報センターで、他の県の観光情報誌を置くようにしてほしい。 ・宿泊施設の空き状況の共有化されるといい。
カフェ	雰囲気	<ul style="list-style-type: none"> ・子連れの人が利用するのであれば、庶民的な親しみやすいカフェが併設されるといい。
	メニュー	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消のメニューを出してほしい。
駐車場・バスベイ・広場	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースは広く取ってほしい。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・車が無い人でも行きやすい交通手段が欲しい（バス等） ・電車やバスの時刻等を知らせる電光掲示板があるといい。
その他	空間	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生がお金を使わずに過ごせる場所がほしい。 ・フリースペースや運動ができるスペースがほしい。

7 基本理念

酒田コミュニケーションポートは、これまで培われてきた中央図書館と駅前観光案内所のサービス機能やネットワークを引き継ぎつつ、本市の新しいにぎわいと交流の創出拠点、観光起点として、酒田の特長＝酒田らしさを活かし、また、それが感じられる場所として整備し、運営していく必要があります。

本市では、西廻り航路が整った江戸期には、海上交易と最上川舟運の要として、ヒト・モノ・コトが行き交い、独自の湊町文化を形成しました。また、世界に誇れる山（鳥海山）、川（最上川）、海（日本海）、島（飛島）と豊かな自然が彩っており、それに育まれた豊富な食材や風土があります。

その酒田が有する知（地）的資源をライブ発信し、人が集い、出会い、交流することで新たな「価値」を創出します。

訪れる人にとっての情報発信源の機能を果たすとともに、「進取の気性（精神）」「公益の心」を持つ人財の形成の場としても機能させていくことを目指します。

酒田コミュニケーションポートの基本理念を、次のとおりとします。

知（地）のアリーナ

～ヒト・モノ・コトが行き交い、多様なコミュニケーションが創出され、知（地）的好奇心がインスパイア¹されるみんなの居場所～

○市民の暮らしの質（QOL）の向上

○酒田の価値向上

アクションプラン（イメージ）

◆「知」のライブパフォーマンス

- 東北公益文科大学まちなか講座
- 日本海総合病院ヘルス・メディカル講座
- 著作者や酒田ゆかり人のミニトーク
- ライブラリアンによるお薦め本紹介
- 慶応義塾大学先端生命科学研究soまちなか講座 など

◆「地」のライブパフォーマンス

- 駅前マルシェ
- 食べマルシェ（酒田フレンチ・酒田のラーメン）
- 各地伝統芸能ストリートライブ
- ジオパーク、日本遺産関係まちなか講座 など

¹ インスパイアとは、奮い立たせる、駆り立てる等の英訳です。

8 基本方針

酒田コミュニケーションポートの基本方針を、次のとおりとします。

学び、成長する場

- 地域を知り、学び、好きになる。
- 市民の知的好奇心に応え、支援し、暮らしを豊かにする。

- ・市民が、地域の歴史や文化等を学び、自らのアイデンティティを再認識し、本市の魅力、可能性を見出し、誇りや郷土愛を高め、学びを通じての自立する人を育みます。
- ・市民の日々の暮らしを豊かにする文化的場所として、知的好奇心に対して支援していきます。

交流の場

- 日常のライフシーンに応える。
- 市民も、観光客も寛ぎ、交わる。

- ・読書、打合せ、遊び（交流）、食事、学習、電車待ち、バス待ち、人待ち、イベント、発表等、日常の多様なライフシーンが展開される場を目指します。
- ・本市が持つ文化等の地域資源を活かすとともに、駅前という立地特性を最大限に活かすサービスを行い、にぎわいと交流の創出につながる役割を果たします。

情報発信の場

- 庄内地方、酒田らしさを積極的に発信する。
- 明確な情報が拡散、口コミで広がる。

- ・交流人口の活性化を目指すためには、酒田の情報だけでなく、庄内、広域連携圏も含めた情報発信（観光オリジナル・ストーリー等）を積極的に行い、相乗効果を図ります。
- ・情報化社会において、相手に届く効果的な情報発信に取り組みます。

子育ての場

- 親子で気兼ねなく、安心し、利用できる。

- ・酒田の宝である子どもの健やかな成長は、市民の願いです。読書を通じて子どもの感性、表現力、想像力等を育て、また、子育てする親が安心して利用できる場としていきます。

9 機能別サービス、整備方針

(1) ライブラリーセンター

① サービス、整備方針

- 幅広い市民からの利用拡大（掘り起こし）を図るため、これまで十分でなかったサービスの充実や新しい取組みを進めていきます。
- 次代を担う若者の場所づくりの充実を図ります。

これまで培われてきた中央図書館のサービス機能やネットワークを引き継ぎつつ、幅広い市民からの利用拡大を図るため、魅力ある機能の充実を図ります。

市民アンケートでは、図書館を利用したことがない、利用機会が少ない市民が多くいることがわかりました。ライブラリーセンターは、酒田コミュニケーションポートの中核となす機能であり、「資料・情報、空間、スタッフ」という資源を活用しながら他の機能間との連携を広げていくことで、施設全体の活性化を図る重要な役割を担います。

図書館を使ったことがない、利用経験が少ない市民に対しては、ライブラリーセンターからの情報発信を充実させるとともに、職員が積極的に「外に出ていく」ことで、サービスを見せていく姿勢が求められます。

これまで十分に答えられてこなかったサービスへの対応も必要です。市民が持つ課題解決の支援、青少年の居場所づくりや交流の促進、郷土の貴重な資料の活用・PR、学校、大学、コミュニティセンター、市民団体、ボランティア、庁内各課等との連携によるサービス展開などが必要です。

ア 学びたい、知りたいに答え、地域課題の解決への支援を担う知の拠点

- ・市民の学びたい、知りたいという知識の深堀や知的好奇心、生活・ビジネス・学習などの課題解決に答えていく拠点として、資料の収集技術の向上はもちろんのこと、各種講座やレファレンスサービス²の充実を図ります。
- ・職員のレファレンス能力の向上を図り、レファレンス専用のデスクを配置します。サービスの仕組みなどを積極的に周知していきます。
- ・日常的な調べものや、調査・研究に資するオンライン・データベースの導入・活用も費用対効果を見極めながら検討します。
- ・資料・情報だけでなく、専門機関や市内の人材等、ニーズに合った情報提供を行います。

² レファレンスサービスは、知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すための案内をして、資料提供や情報提示により調べものの手助けをするサービスです。

- ・受け身の姿勢でなく、地域・市民の課題解決のためにライブラリーセンターが果たせることができないか常に考え、関係機関と協力しながら、まちづくり・ひとづくりの支援をしていきます。
- ・ライブラリーセンターの施設内に留まることなく、館外、地域に飛び出してもサービスを提供していきます。学校、大学、コミュニティセンター、市民団体、ボランティア、庁内各課等との連携による資料情報の提供、講座の開催や、来館が難しい方々や遠方への出張講座等が考えられます。

(参考事例)

長崎県立図書館のがん情報コーナー。市民からがん情報へのニーズが高いことを捉え、専用の資料コーナーを設置するとともに、地域の医療機関や行政等と連携して、講座や相談会などの場を提供しています。



イ 若者から高齢者までのあらゆる層の市民が集い、利用し、活動する場所づくり

- ・自習（学習室）やグループ討議・活動が行えるスペースを設けます。ラーニング・コモンズとしても利用が出来る機能の導入も検討します。
- ・持ち込みパソコンやモバイル端末を利用できるスペース、Wi-Fi環境を整備します。
- ・休日はもとより、平日でも日中は高齢者や子育て世代が、夕方は地元小学生、中学生、高校生が、夜は大学生や仕事終わりのビジネスマン等とそれぞれの利用層・時間軸に応じた講座等の事業を展開していきます。
- ・本に囲まれた空間を活用し、英語学習、音楽会、映画会（パブリックビューイング）、朗読会、展示会、活動成果発表、多世代間交流など、刺激を受け、出会いと交流する舞台として、積極的に市民に開放していきます。また、多くの団体に利用してもらうよう、積極的な広報を行っていきます。

(参考事例)

東京都千代田区立日比谷図書文化館の特別研究室。「都心のセカンドオフィス」をコンセプトに、静かに集中できる空間とし、コンセントと有線LAN付きの学習席を有料で利用できます。館内では無線LANも利用できます。



- ・施設規模が限られるため、例えば、グループ活動室が、学習室や図書館ボランティア活動室、対面朗読室等を兼用したり、閲覧スペースが埋まっている場合は、学習室を開放したりと、曜日、時間帯、来館者数等に応じて、臨機応変に可動するハイブリット型の施設運営を目指します。
- ・学習室は、夏休みや、テスト前になると、不足することが考えられます。そのため、周辺の他公共施設の情報提供を行いながら、学習サポートを行います。
- ・施設内の広場・カフェや、民間施設等と連携しながら、作家のトークショーや本にまつわるイベント等を行います。

ウ 市民ニーズ等に的確に対応していくライブラリアン³の育成

- ・社会の変化や市民ニーズに的確に対応し、前例主義にとらわれず、常にチャレンジするライブラリアンの育成を図ります。
- ・ソーシャルネットワークサービスの積極的な活用などにより、市民に顔が見え、信頼してもらえるライブラリアンを目指します。
- ・ライブラリーセンターの役割は、専門的で多岐に渡るため、能力開発のための研修機会の充実を図り、ライブラリアンの質の向上に努めます。

エ 自分のスタイルにあった読書空間、居心地の良い空間の提供

- ・他の機能間の連携とあわせて、静かな場所、BGMのある空間、少しにぎやかでも良い場所等、それぞれの自分にあった場所を見つけ、利用できる空間を効果的に配置します。
- ・蓋付きの飲みものを持ち込み可能にします。
- ・バスや電車の待ち合わせとしても利用してもらえます。

オ 地域を知り、好きになる郷土愛を育むサービス

- ・本市の歴史・文化、良さ、人を知り、市民としての郷土愛を醸成するよう郷土・地域資料の収集や情報発信を積極的に行います。
- ・本市ゆかりの作家・偉人等に関する資料、時事や季節の話題、歴史・文化・自然・お祭りなどの年中行事、市内及び施設内で行われるイベント、観光情報、行政サービスの紹介等、展示を通して多様な情報提供を行います。専用展示スペースの配置も検討していきます。
- ・光丘文庫の所蔵資料は、地域を知る重要な資料があり、また、貴重な文化財でもあります。ライブラリーセンターで、一部資料の展示等による積極的な

³ ライブラリアンとは、図書館員の英訳です。

紹介を行い、所蔵資料に関する照会や取次ぎができるようにします。所蔵資料のデータベース化を進めます。

- ・地域資料のより幅広い活用を図るため、資料のデジタル化を図り、調査研究、観光情報発信や学校教育の教材、本市のブランディング等に資する取り組みを検討します。

カ 児童・子育て世代へのサービスの充実

- ・これまで子ども読書活動推進計画に基づいて実施してきたブックスタート事業、読み聞かせ、読書手帳等の取り組みを、引き続き推進します。
- ・読み物だけでなく、児童の調べ学習に対応できる資料・情報の充実を図り、学校とも連携して児童の調べものに対する指導・支援を積極的に行います。
- ・児童が本とふれあうプログラムやイベントを展開し、放課後の居場所づくりを目指します。
- ・市内学校、幼稚園、保育所、子育て支援施設等、関連機関と積極的に情報交換し、子育て支援情報、子どもの読書環境の充実を図ります。
- ・施設内の広場・カフェと連携し、親子で気兼ねなく本を読んだり、情報交換できる環境をつくります。
- ・授乳、おむつ交換の場所を設置し、親子で落ち着いて絵本の読み聞かせができる等子育て世代が気兼ねなく使え、交流できるようにします。

(参考事例)

大分県豊後高田市立図書館の「おはなしのへや」。適度に仕切られた空間で、定期的におはなし会を実施します。行事がない時は、子ども同士や親子連れで思い思いに過ごせる場となっています。



- ・読み聞かせできるスペースを専用で設けます。他スペースとの防音にも十分配慮します。
- ・読み聞かせや紙芝居の実演、お話し語り等について、市民ボランティアの参加も積極的に促しながら、推進していきます。
- ・子ども用トイレを設置します。
- ・児童開架は児童の体格を考慮し、書架の高さや配架方法を工夫します。

キ 酒田の玄関口としての案内情報の強化

- ・観光情報センターとは、空間的にも隣接し、資料などを共有することで、図書館の地域資料やレファレンス機能を観光案内に活かします。
- ・観光情報センターと隣接するエリアには、観光に関する地域資料、雑誌、ガイドブック等を配架し、情報発信します。
- ・季節や時事、郷土の行事等に応じたテーマ展示を積極的に行い、効果的な情報を発信します。例えば、映画やドラマの撮影等で話題になった場合、原作や作家紹介、登場人物に関する資料・情報など、多角的な情報提供を行います。
- ・地域資料をデジタル化し、サイネージやモバイル端末で見られるようにすることで、楽しめる観光に活用・演出します。
- ・ソーシャルネットワークサービスを積極的に活用し、施設からの情報発信を充実させます。

(参考事例)

愛知県大府市のおおぶ文化交流の杜図書館における、「デジタル紙芝居 おおぶの民話」絵地図。地元で伝えられている民話を紙芝居にしたものをデジタル化し、絵地図から検索して誰にでも気軽に見られるようにしています。



ク 学校図書館との連携の強化

- ・市内の小学校、中学校、高等学校と連携を図るとともに、学校図書館に対する支援を行っていきます。
- ・子どもの読書活動推進、調べ学習等授業の支援のため、関連する資料を収集するとともに、学校図書館運営をサポートできる人材の養成に努めます。
- ・児童・生徒による図書委員活動を支援します。ライブラリーセンターの使い方講座・職場体験や、ビブリオバトルの場の提供などを図っていきます。

ケ 分館、東北公益文科大学等との連携の強化

- ・分館との間の資料の流通を強化し、新しい図書を定期的に供給します。
- ・東北公益文科大学図書館と連携し、大学が専門とする分野の資料やレファレンスの相談を受けられるようにします。

- ・図書館ボランティアと連携したサービスを行います。また、図書館ボランティアが維持していけるよう活動スペースの提供のほか、人材育成の支援を行っていきます。
- ・県立図書館、県内市町村立図書館及び国立国会図書館等との連携を図り、相互貸借、レファレンス事例共有等を行うことで、市民サービスの一層の向上を図ります。
- ・他の社会教育施設、関係行政機関等との連携を図ります。
- ・再開発区域内の民間施設と連携し、本の持ち込みや相互に情報発信するなどの検討を行っていきます。

コ 高齢者・障がい者サービス

- ・拡大読書器を設置します。
- ・音声や触知図、見やすい配色等によるわかりやすいサインや案内及び筆談用具、拡大鏡を備える等、利用のバリアをなくすよう努めます。
- ・高齢者、障がい者が資料を探しやすく、閲覧しやすいよう工夫します。特に障がい者に対しては、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」に基づき、合理的な配慮をする必要があることを踏まえ、サービスの充実を図っていきます。

サ 閲覧・貸出サービス

- ・予約資料やリクエスト資料、貸出上位ランキング等、貸出に関する情報発信を充実させます。
- ・オンライン・データベース等、紙媒体だけでは得られない情報提供の充実を図ります。
- ・ICシステムによる、貸出・返却のセルフ化を引き続き進めます。
- ・著作権法の範囲に基づく複写サービスを引き続き提供します。

シ ICT サービス

- ・蔵書検索用のパソコン、インターネット接続可能な端末を充実させます。
- ・インターネットや、館内蔵書検索用のパソコンの利用説明等、だれでも簡単に情報が引き出せるよう、利用案内を積極的に行います。
- ・電子書籍の発行が増加することを踏まえ、収集・提供する電子書籍の導入については、費用対効果を見極めながら、検討していきます。
- ・デジタル化した資料・情報を、サイネージやタブレット等で発信することを検討します。

ス その他

- ・学習室との連携で、文房具関係物販の可能性も検討していきます。
- ・レビューを設置したり、本が探しやすい、手に取りたくなる配架、見せ方に努めます。
- ・ライブラリーセンターの延床面積は、3,000 m²を基本とします。

② 資料収集方針

○市民の生涯学習を支え、地域の情報拠点、知の拠点としての役割を果たし、また、何気なくふらりと立ち寄る市民にとっての居場所としての役割を果たすため、それに資する資料の収集に取り組みます。

資料の収集にあたっては、これまでも一定の基準のもと収集を行ってきていますが、ライブラリーセンターでは、規模の課題等から充実を図ることが出来なかった分野や酒田コミュニケーションポートの基本理念・基本方針の実現のために求められる分野について、強化していきます。

ア 計画蔵書数

他自治体や県内図書館の状況等を踏まえ、次のとおり計画します。

- ・ライブラリーセンターの計画蔵書数は、約 300,000 冊とします。
- ・開架約 20 万冊、閉架約 10 万冊を目指します。ただし、居心地の良い空間づくりや企画展示スペース等とのバランスを配慮していきます。
- ・開架は、日本十進分類法に基づき資料を分かりやすく配架します。
- ・閉架書庫は、10 万冊程度収蔵可能な集密書庫⁴とします。
- ・現中央図書館及び児童図書室から移設する資料の選定、配架計画、除籍等については、今後、方針を定めていきます。

イ 資料収集のポイント

ア) 市民の財産となる地域の資料・情報の収集

- ・地域の歴史・文化・産業・教育等に留意し、市民の財産となる資料・情報を収集します。
- ・本市に関する資料は、一般に流通する図書資料だけでなく、行政機関や民間団体、個人が発行するもの（広報誌や統計資料、パンフレット、コミュニティペーパー等）についても、幅広く収集します。

⁴ 集密書庫は、収納能力を優先させた移動式書架で構成する書庫をいう。

- ・郷土資料については、図書だけでなく画像、映像、古地図、絵葉書等にも留意し、市民が郷土の歴史と文化を知るうえで貴重な資料について、可能な限り収集します。その上で、デジタル化を検討していきます。
- ・本市との交流都市や観光案内に資する資料、ガイドブック等を積極的に収集します。
- ・「鳥海山・飛島ジオパーク」に関連する資料の収集を強化し、学校等との連携により、教育・学習活動に活用できるようにします。
- ・本市ゆかりの著名人に関する資料の収集に努めます。

イ) 多様な市民ニーズに応える、新鮮で豊富な資料・情報の偏りない収集

- ・市民の教養及び生涯学習のニーズに応えるため、人文科学・社会科学・自然科学の各分野にわたり偏りなく収集します。
- ・一般書のほか、専門書、実用書、参考図書等にわたり、常に最新の情報が提供できるように収集します。
- ・生活実用書、趣味、教養に関する資料のほか、子育て、医療、介護等の資料・情報を充実させます。
- ・ビジネスやまちづくり関係の資料・情報を充実させます。
- ・思想的、宗教的、政治的な立場にとらわれることなく、市民が多様な視点から情報が得られるよう、幅広く収集します。
- ・国際交流、インバウンド対応、英語教育の強化等に対応するため、英語資料の充実を検討します。

ウ) 青少年、20代若者向け資料の充実

- ・これまで、必ずしも十分と言えなかった青少年、20代若者向けの資料について、そのニーズ等を考慮した魅力的な資料を収集します。
- ・これまでの図書館利用から遠ざかりがちな若者世代向けに、スポーツ、ファッション、音楽、芸術等の資料を充実させます。
- ・調べ学習に必要な資料や、学校図書館の蔵書を補完するような資料を、学校図書館と連携しつつ幅広く収集します。
- ・将来の進路を考えるうえで参考になる資料を収集します。
- ・漫画についてのニーズが高いため、書架スペースとのバランスに考慮しつつ、定評のあるもの、保存に耐えるもの等の方針を定め収集します。

エ) 新聞・雑誌の充実

- ・寛ぎながら時間を過ごせる場所として市民から利用してもらえるために、新聞・雑誌の充実を図ります。

- ・新聞については、主要全国紙から東北地方・山形県内の地方紙等、幅広く収集します。なお、観光圏などが一緒の隣接県の地方紙の収集を検討します。
- ・国際交流が進んでいる時代において、外国語新聞の収集も行います。
- ・小中高生の活字に親しんでもらうため、小学生新聞や中高生新聞の収集を検討します。
- ・その他の専門新聞の充実も図っていきます。
- ・雑誌については、各世代各分野にわたり、一般的なものから専門的なもの、地域性のあるものまで、幅広く収集します。
- ・県を中心とする地域限定の情報誌やミニコミ誌なども、積極的に収集します。

オ) 一般図書

- ・入門的・基礎的な資料から生活に役立つ実用的・専門的な資料まで、幅広く収集します。
- ・日常的な調べものや、調査・研究に資する参考図書（辞書、事典、統計、白書、地図等）を収集します。

カ) 乳幼児・児童図書

- ・子どもが読書に親しみ、発達段階に応じて読書習慣が継続されるよう、年齢層ごとの資料を偏りなく収集します。
- ・絵本、紙芝居、読み物については、定評のあるものから新しい作品まで幅広く収集します。
- ・子ども向けの調べ学習に資する資料、参考図書を積極的に収集します。

キ) 高齢者・障がい者向け資料

- ・大活字本等の読みやすい資料を収集します。
- ・録音図書については、基本的には山形県立点字図書館が担い、本市は、当該図書館との連携を図り情報発信に努めます。
- ・医療、健康、福祉、年金、余暇など、シニアニーズに応じた資料を偏りなく収集します。
- ・視覚的な図鑑・写真集などを収集します。
- ・障がい者向けには、電子資料の有用性に十分、配慮します。
- ・障がいを理解する助けとなる資料・情報を収集します。

ク) 視聴覚資料

- ・市民の教養を高め、生涯学習に資する視聴覚資料については、技術革新に留意しながら、その状況を踏まえつつ収集します。

ウ 資料の保存

- ・保存期間を設けるもの（新聞・雑誌等）、利用頻度や劣化状態等考慮して適宜除籍するもの（図書・視聴覚資料等）、永年保存するもの（貴重資料等）に分け、適切な保存を行います。
- ・新聞・雑誌について、限られた保存スペースを踏まえ、庄内地区の図書館と調整・役割分担しながら保存していきます。

(2) カフェ

- 居心地の良い空間を創出します。
- あらゆる世代が気兼ねなく訪れる場とします。

- ・中高生の若年層も含め、市民が気軽に立ち寄れる雰囲気と価格・メニューの設定を図っていきます。
- ・市民だけでなく、観光客・来街者も利用するカフェとして、地域食材や特色あるメニューの提供を検討します。
- ・単なる飲食、時間・場所の提供だけでなく、人々の交流、コミュニケーションの創出を積極的に仕掛けるため、ワークショップ講座やイベント等を、他の施設機能と連携しながら展開します。
- ・夜にアルコール提供を可能とするなど、時間帯、利用者層の違いに応じたサービスの提供を図ります。

(参考事例)

東京都武蔵野市「武蔵野プレイス」内のカフェは、午後5時からアルコールを提供しています。



- ・ライブラリーセンター等の施設内への蓋付きの飲料持込みを可能とすることから、テイクアウトサービスの導入を図ります。
- ・開架図書（貴重資料等の一部は除く。）の持込みや、飲食しながら読書できる場所とします。
- ・カフェの延床面積は、200㎡を基本とします。

(3) 観光情報センター

- 酒田の玄関口、観光の窓口（ゲートウェイ）として、案内機能を強化し、まちなかへの誘導等を図ります。
- 観光客が満足していただける環境整備に取り組んでいきます。

① 観光コンシェルジュの配置、養成

- ・観光のおもてなしとして、酒田の魅力、観光に精通した観光コンシェルジュの配置、養成を目指します。
- ・観光客と対面で話しができる環境を整備します。
- ・市内の観光情報の一元化、ネットワーク構築に努め、宿泊先の空き情報や各観光施設の開館状況、公共交通案内、イベント情報等の照会に対応できる体制づくりを進めます。まち歩きルートのおオーダーメイドサービスを提供していきます。
- ・ライブラリーセンターとの連携による観光関連資料や郷土資料の提供によるサービス（情報発信）の充実が図られる等、他の機能や民間施設との連携による効果的なサービスの提供を検討していきます。

② 市民団体等との連携

- ・本市には、（一社）酒田観光物産協会、観光ガイド協会、酒田おもてなし隊（東北公益文科大学）、湊町さかた探検隊等、観光やまち巡り等で活動する市民団体等が存在しています。今後、DMO⁵を含めた観光関連組織の強化を目指した検討と行うこととしていますが、既存団体等との連携した運営を推進し、必要に応じて活動団体が観光情報センター内で活動できる環境づくりや、活動内容のPR等を行います。

③ 情報発信機能の強化

- ・本市の観光モデルルート、まちなか観光（まち歩き）、イベント等の情報にオリジナル・ストーリーを付加する等して魅力ある発信を行い、回遊を促していきます。
- ・酒田のことはもちろんのこと、広域観光圏の観光情報提供も充実します。羽越観光圏、庄内、北庄内、鳥海山・飛鳥ジオパーク、秋田市連携、陸羽西線沿いと観光圏が拡大、広域化しており、本市だけでなく広域交流圏内の情報を積極的に発信していきます。

⁵ DMOとは、地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織を指す。

- ・ライブラリーセンターとの連携により、本市の観光関連資料や郷土資料の提供によるサービス（情報発信）に取り組みます。ライブラリーセンターと接するエリアには観光案内に資する地域資料、ガイドブック等を配架します。
- ・酒田の玄関口として、酒田コミュニケーションポールの顔として、山鉾、傘福、黒森歌舞伎等、旬に応じた伝統芸能や工芸品を展示し、酒田の文化等を感じてもらいます。
- ・ソーシャルネットワークサービスによる情報発信を強化します。多言語による発信ができるよう検討します。
- ・広場と連携した観光イベントを行います。

（参考事例）

左下図は、秋田駅内に展示されている竿灯。右下図は西松建設㈱からの提案書に記載されている傘福展示イメージ図。



④ 土産品販売の検討

- ・現在、酒田駅周辺地区で不足している土産品について、販売の検討を行います。面積が限られることを想定すると、一部厳選、セレクト化した土産品の販売も考えられます。

⑤ インバウンドへの対応

- ・外国人旅行客の増加に伴い、英語が話せるスタッフを配置し、外国人観光案内所（カテゴリー1～2）⁶を併設します。
- ・外国人観光客に需要の高いWi-Fi環境を整備します。

⁶ 外国人観光案内所は、日本政府観光局が運用する認定制度であり、サービス内容により、3つのカテゴリー及びパートナー施設に区分されます。カテゴリー1は、常駐でなくとも何らかの方法で英語対応可能で地域の案内を提供。カテゴリー2は、少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐で広域の案内を提供。

- ・外国人向けの観光ガイドの充実を検討します（音声ガイドシステム、通訳ボランティア等の斡旋）。

⑥ その他

- ・観光客用のコインロッカーの設置を検討します。
- ・観光用自転車の設置を検討します。施設利用者の駐輪場とのバランスに留意します。
- ・観光情報センターの延床面積は、100 m²を基本とします。

(4) 広場

○潤いと、にぎわい・交流を創りだす場とします。

- ・駅舎と正対する場所に位置する酒田の玄関口（まちのエントランス空間）として、街路樹等の歩道空間とあわせて、ふさわしいランドスケープ（景観）を形成していきます。
- ・市民のハレの場、多彩なイベントの場として積極的に活用してもらえよう、利用基準や設備（給排水等）等の環境整備を図ります。なお、利用基準や環境整備を図るだけでなく、ここを多くの団体に利用してもらおうよう、積極的な広報を行っていきます。
- ・例えば、晴れの日には、広場でライブラリーセンターの読み聞かせ会をするなど、他の施設機能とも積極的に連携していきます。
- ・市民の日常の生活空間として、親子連れが弁当開きを出来たり、高齢者が休憩したりあらゆる世代が、憩える、潤いある屋外空間とします。一部の芝生化も検討していきます。

（参考事例）

駅前という立地環境において芝生広場を整備する事例が増えていきます。
右図は、姫路駅北駅前広場。



- ・防風対策、融雪装置等、気候性に配慮した整備を行います。
- ・広場の延床面積は、1,000 m²を基本とします。

(5) 駐車場

○多くの市民がアクセスしやすく、酒田コミュニケーションポートのサービスを等しく享受できるよう適正な管理をしていきます。

- ・駐車台数は、200台を基本とします。
- ・より多くの市民から、来館してもらうため、回転効率を考慮しながら、また適正な施設管理が取れる利用基準にしていきます。
- ・酒田コミュニケーションポートだけでなく、酒田駅周辺地区への来街機会を創出し、当該地区の活性化に資することを目指します。
- ・そのため、他地区の商店街のように、駅前商店街との連携で、共通サービス券の発行等を図っていきます。
- ・利用基準については、周辺や他事例を参考とし、最初の2時間までは一律無料をイメージして今後具体化していきます。

(参考：駅前駐車場の運用状況 (H28 本市独自調べ))

宮城県多賀城市	駅南立体駐車場	最初の1時間まで無料
長野県伊那市	駅前再開発ビル駐車場 (立体)	最初の1時間まで無料
鶴岡市	駅前マリカ駐車場 (立体)	最初の3時間まで無料
長野県茅野市	駅西地下駐車場	最初の3時間まで無料

(参考：図書館利用者の駐車場割引状況 (H28 本市独自調べ))

1時間無料	一宮市図書館 (愛知県)
2時間無料	山形県立図書館 福岡市総合図書館 多賀城市図書館 高崎市中央図書館 (群馬県) ぎふメディアコスモス
3時間無料	豊田市中央図書館 (愛知県) 鳥取市中央図書館
4時間無料	新発田市図書館 (新潟県) 沼田市図書館 (群馬県)

- ・市主催イベントのため、2時間を超える酒田コミュニケーションポート利用者へ配慮した運用も図っていきます。
- ・鉄道利用者の促進を図るため、JR利用者用の割引制度を検討していきます。
- ・大規模なイベント開催時などには、当該駐車場だけでは不足するケースも想定されるので、対策として、周辺の民間運営の駐車場の活用を検討します。
- ・EV充電器の整備を検討します。

(参考)

- ・現中央図書館が入っている総合文化センターの駐車場台数は、260台となっています。

(6) バスベイ

- 視認性を高め、他の施設との連携により快適な環境整備を図ります。
- まちなかへの回遊起点として、公共交通再編の動きとあわせて、利便性が高い場所としていきます。

- ・現在の酒田駅周辺のバス停は、路線によって乗り場が散らばっており、観光客や来街者にとって分かりにくい状態にあるため、バス停の集約を図り、視認性を高めるとともに、バス事業者と協議を進めながら、全ての駅前経由路線が当該地に乗り入れできないか検討していきます。
- ・平成28年7月策定の地域公共交通網形成計画の重点事業でもある、安全で快適にバスを待つことができる環境づくりを進めます。
- ・バス待ちにライブラリーセンター、カフェ、広場などで心地よく過ごしていただきます。
- ・観光情報センターなど、施設内に誰でも見やすい時刻表、案内表を整備します。
- ・今後の「市街地における交通拠点整備」「主要拠点間の交通ネットワーク充実」という再編の中で、自動車を持たない方の酒田コミュニケーションポートへのアクセス改善を図っていきます。また、本市の課題である観光客向けの二次交通対策も検討していきます。

(参考事例)

右図は、西松建設(株)からの提案であるバス停イメージ



(7) その他

- ・施設利用者用の駐輪場を整備していきます。
- ・3階屋上については、屋外テラス、イベント用、子どもの遊び場等の用途として活用が考えられますが、費用対効果を見極めつつ、今後、市民意見等を聴きながら検討を進めていきます。
- ・年に一度、酒田コミュニケーションポートまつり（仮称）を開催し、本市の新たなビッグイベントとして、にぎわい創りを行っていきます。

10 施設計画

- 機能間の連携やすみ分けに配慮した、わかりやすいゾーニングとします。
- 誰もが使いやすく、気軽に立ち寄れ、酒田らしさに配慮したデザインとします。
- トータルコストに配慮した施設計画とします。

(1) 施設整備の基本的な考え方

① 市民・来街者の利用を第一に考えた施設整備

- ・駅前のにぎわいを創出し、まちの活性化を図るために、市民や来街者が寄り付きやすい、「親しみやすい施設」を目指します。
- ・利用のしやすさを第一に考えた、子どもから高齢者まで誰にでも「使いやすい施設」を目指します。
- ・市民が思い思いの時間を充実して過ごすことができるように、多彩な場所が用意された「機能的で快適な施設」を目指します。
- ・生活の豊かさや楽しさを実感することができる、「市民が誇りと喜びを感じる」ことができる施設」を目指します。

② 充実したサービスを提供するインフラとしての施設整備

- ・デジタル資料の提供やサービス効率向上のための ICT 化などの「先進的な技術を導入した施設」を目指します。
- ・職員が働きやすく、「サービス提供がしやすい施設」を目指します。

③ 地球環境にやさしい施設整備

- ・内外装ともに劣化や経年変化が少なく、日常的に清掃やメンテナンスがしやすく、経年後の更新の負担のすくない、「維持管理がしやすい施設」を目指します。
- ・自然光で明るく、エネルギー消費量の抑制が図られ、地球環境や地域環境に対する負荷に十分に配慮し、地域の先導的な役割を果たす施設を目指します。

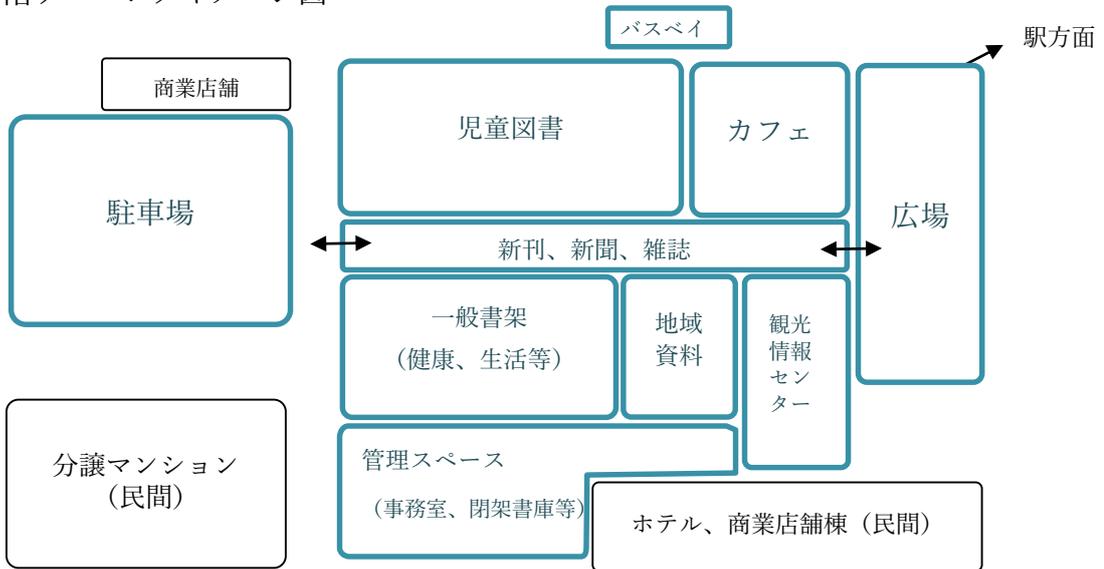
(2) 施設全体の構成・計画に対する留意事項

- ・良好なサービスの提供を図るために、管理運営のスペースを利用者スペースと明確に区分して、効率の良い配置を構成します。
- ・ライブラリーセンターの資料保全のため、持出し防止ゲートによって明確な管理区分を設定します。
- ・ゲート設置個所付近にカウンターを設けるなど、利用者目線での利便性に配慮します。

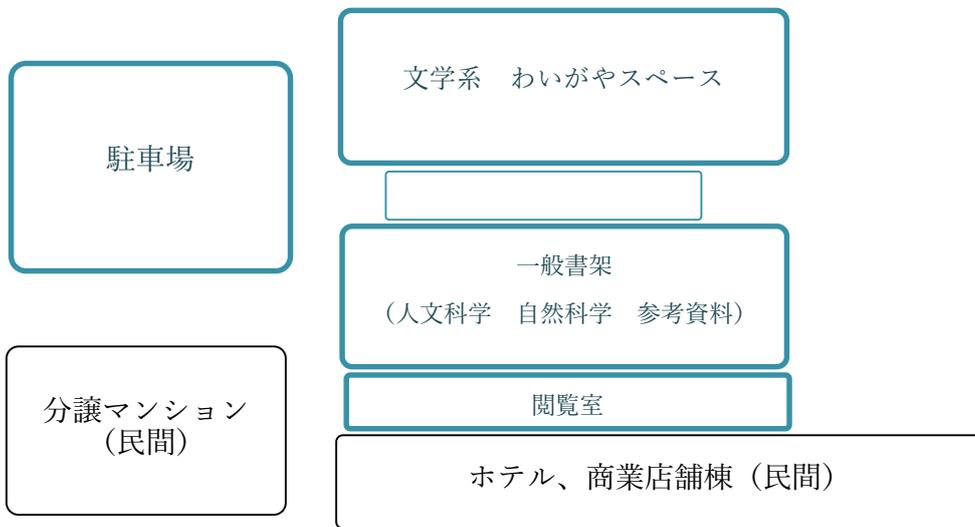
- ・施設配置にあたっては、利用者目線を第一に、駅との動線、施設間の動線、移動しやすさに配慮した整備を行います。
- ・機能間の連携やすみ分けに配慮した、わかりやすいゾーニングとします。機能ごとに運営時間・運営日が異なることに配慮し、運営に支障が出ない計画とします。
- ・民間施設を含めた再開発エリア全体での連携を意識した計画とします。民間施設と役割分担しながら、災害時における一時避難施設（帰宅困難者用）としても機能するようします。
- ・自然エネルギーの有効活用や、低環境負荷材料の使用に配慮します。
- ・施設のライフサイクルを考慮し、建設コストと維持コストの最適化を図り、総合的に経済的な施設の実現に配慮します。
- ・再開発エリア全体のデザインとの調和を図るとともに、酒田の玄関口としての魅力及び存在感がある外観・内観のデザインとします。
- ・各機能間の動線上の雨対策（シェルター）に配慮します。
- ・気候性（冬季の風雪等）に配慮します。
- ・廊下、階段、トイレ、エレベーター等共用部分は、高齢者、障がい者、子育て世代など誰もが支障なく、利用しやすいユニバーサルデザインとし、車椅子やベビーカーの利用に十分配慮します。

【図5】酒田コミュニケーションポート ゾーニングイメージ図

1階ゾーニングイメージ図



2階ゾーニングイメージ図



(注) 本イメージ図は、今後、詳細設計を進めていく中で、変更していきます。

(3) 地域産業支援基本方針及び木材利用促進基本方針に基づく整備の推進

- ・地域産業支援基本方針（平成 28 年 4 月策定）及び木材利用促進基本方針（平成 28 年 12 月策定）に基づき、地域産業の振興を図る視点から、地元産材の活用などに努めていきます。

(4) 施設各機能の計画の留意事項

① ライブラリーセンター

- ・利用者の行動に対応しやすいように、観光情報、子ども向けサービス、新聞・雑誌、生活実用系のポピュラーの資料等は、入口に近い 1 階に設けます。人文科学・自然科学・社会科学系各資料や、参考資料等、学習や調査研究のための資料及び学習のためのスペースは、2 階に設けます。
- ・書架間隔は 1,800 mm を基準とし、柱間隔は整数倍を基本とします。
- ・書架の高さは、子ども用は 1.5m 程度、大人用は 2.1m 程度を基本とします。
- ・カウンターは、利用者の出入りが確認しやすく、持出し防止ゲートに近く、バックヤードとの連携が図りやすい位置への配置を配慮します。
- ・資料を探しやすいように書架をレイアウトします。
- ・資料に対応した適切な形態の閲覧席を用意します。
- ・高窓や吹抜けによって、自然光で明るい館内をつくります。
- ・特に、日常的に行われる「返却本の返却処理、仕分け、搬送・配架」の作業や、新刊本の受け入れ作業、館外への貸出作業などがスムーズに行える動線を設定します。
- ・ブックポストは、利用者が休館日や開館時間外に資料が返却でき、自動車アクセスしやすい位置に設け、バックヤード内の作業スペースと比較的短い動線で結べる位置を配慮します。
- ・閉架書庫は、出納時間を短縮するために、カウンターから比較的近い位置に設けます。
- ・各種帳票類、利用案内パンフ、紙類等を整理して収納できるスペースを用意します。

② カフェ

- ・道路や広場に面し、持出し防止ゲート内からも、外からも利用できる計画を検討します。

③ 観光情報センター

- ・駅舎からの来街者を出迎える窓口として、駅側に向けて配置します。

- ・カウンターは施設入口に近く、利用者にとってわかりやすい位置に配慮します。

④ 広場

- ・一部の緑化を検討します。
- ・イベント開催時の電源の及び給排水設備を確保します。

⑤ 駐車場

- ・安全で使いやすく、気候性にも配慮した計画とします。
- ・身障者用の駐車場を確保します。

⑥ バスベイ

- ・バスの待ち時間を快適に過ごせるよう、周辺環境に配慮します。
- ・視認性が高く、わかりやすい配置とします。

⑦ 管理系諸室

- ・職員の休憩スペースは、職員が交代で昼食をとることを考慮して、くつろげる空間とします。
- ・職員用の更衣室を男女別に設けます。
- ・荷物の搬入口、荷捌き場、廃棄物置き場、清掃用具置き場、倉庫等を適切に配置します。

11 管理運営計画

- 多くの市民、観光客から利用していただくための運営時間を設定します。
- 機能間連携を重視した柔軟な運営体制を構築し、効果的・効率的なサービスの提供を推進します
- 市民の力、民間の力を積極的に活用します。

(1) 開館時間及び休館日

各施設の開館時間及び休館日の考え方は、次のとおりです。なお、オープン後においても、利用状況や市民ニーズに応じて、柔軟な見直しや運用を行ってまいります。

① ライブラリーセンター

- ・多様な世代、層が集えるよう、仕事終わりの利用等の市民ニーズ（アンケート調査結果）や、電車通学者が待ち時間に過ごす場所として総合的に考慮し、現在の中央図書館の閉館時間を延長します。
- ・休館日については、現中央図書館は、実質休館日を設けてなく、図書館職員間の打合せ、職員研修、企画事業等の取組みの面で必ずしも十分な運営体制が取れていません。これまでの貸出中心の施設から脱却して、様々な事業を展開し、サービスの質の向上を図るため、週一回程度の休館日を設けます。
- ・図書整理期間については、ICシステムの効果的な運用を図り、現在より短縮します。

② カフェ

- ・開館時間はライブラリーセンターとの相乗効果、相性を最優先として設定し、休業日は観光客の玄関口・駅前に不足している飲食機能を補うという性格等から、観光情報センターの休業日に合わせます。

③ 観光情報センター

- ・開館時間は、他市（特に広域観光圏となる秋田市、新潟市）を参考に設定することとします。
- ・休業日についても、市の主要観光施設の休館日が元日のみの所もありますが、年末年始は観光需要が最も減少する時期であることから、本市の状況、他市を参考に、設定することとします。

- ・なお、観光情報センターが開館時間以外の来館者への対応については、ライブラリーセンターのカウンターや隣接する民間施設でも案内ができるよう連携方法を協議していきます。

④ 広場

- ・積極的な広場の活用促進（イベントへの貸出し等）を基本とし、施設間の連携、相乗効果が図られ、かつ管理上の面等から、ライブラリーセンターの開館時間等に合わせていくことを基本とします。
- ・休業日については、管理上、管理者が常時現地で立ち会う必要性が無いことや、にぎわい創出に繋げていくため、年中無休とします。

⑤ 駐車場

- ・駅及び駅周辺利用者の利便性の確保のため、他の市営駐車場、中町サントウンパーキング、酒田駅駐車場と同様、自動化により、24時間営業、年中無休を基本とします。

以上により、現在想定される開館時間及び休館日等のイメージは、次のとおりです。また、官民複合施設のメリットを活かし、例えば、公共施設の開館時間外は、民間施設一部を公共交通の待合スペースとして利用するなどの連携策を検討し、利便性の向上に努めます。

(酒田コミュニケーションポート開館時間等 検討イメージ)

施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
ライブラリーセンター	9:00～21:00	9:00～19:00	毎週1日、図書整理期間6日以内、12/29～1/3
カフェ	9:00～21:00	9:00～19:00	12/31～1/2
観光情報センター	9:00～19:00	9:00～19:00	12/31～1/2
駐車場	24時間	24時間	年中無休
広場（イベント利用時）	9:00～21:00	9:00～19:00	年中無休

(注) 例えば、広場で朝市を開催する等もありえるので、近隣住民に配慮しつつ、開館時間の具体的な運用を今後検討していきます。

(参考：現在の施設の開館時間等)

施設区分	開館時間		休館・休業日
	月～土	日、祝	
中央図書館	9:00～19:00	9:00～17:00	図書整理期間14日以内、12/29～1/3
観光案内所	9:00～17:00	9:00～17:00	12/30～1/3

(2) 運営組織

運営組織の検討にあたっては、限られた人員や財政状況において、全体最適化を図り、利用者への最大のサービス提供を実現していくという視点が重要です。

特に、酒田駅周辺地区においては、長い間、まちの空洞化が進んでいる状況で、一刻も早期のまちの再生が求められています。酒田コミュニケーションポートだけが良ければ良いということではなく、周辺エリアを含めてのまちの活性化のための施設運営（エリアマネジメント）という視点も求められます。

今回、酒田コミュニケーションポートでは、これまでの施設機能ごとに、市組織の各所管課に振り分けるのではなく、所管課を一元化した運営組織による効果的・効率的な運営の検討を行います。

利用者、来街者にとって、窓口一本化は効果的と考えます。また、スピード感ある事業展開、意思決定や現場対応を進める上でも効果的と考えます。

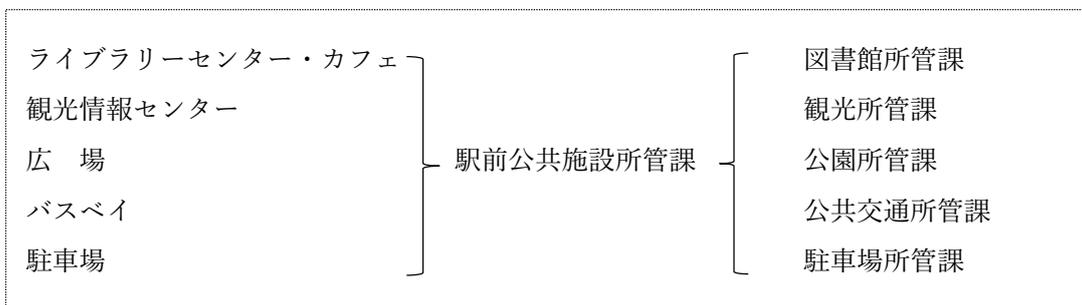
複合機能施設という特性から、一体感の醸成が大事であり、セクション主義に陥らない体制を持続的に確保していきます。

(従来型イメージ)

ライブラリーセンター・カフェ	→	図書館所管課
観光情報センター	→	観光所管課
広場	→	公園所管課
バスベイ	→	公共交通所管課
駐車場	→	駐場所管課



(酒田コミュニケーションポート運営体制 検討イメージ)



(3) 運営形態

酒田コミュニケーションポートでは、新しい利用者の掘り起こしや新たなサービスの提供にチャレンジしていきます。多様なサービスを提供するためには、専門性の高い職員を確保し、効率性の高い運営を行う必要があります。

サービスの質を向上・維持させていくためには運営コストも増大することが予想されます。厳しい財政状況下においても、人財を支え、市民の生活・福祉の向上に資する大切な場所として50年、100年先へと受け継ぐためにも、行政だけで運営を切り盛りするのではなく、民間の運営ノウハウの導入や図書館ボランティア、観光ガイド協会などの市民団体等との協働を図り、コストパフォーマンスを向上させていきます。

(4) 事業計画及び評価

酒田コミュニケーションポートにおいては、年度ごとの事業計画を策定し、公表するものとします。

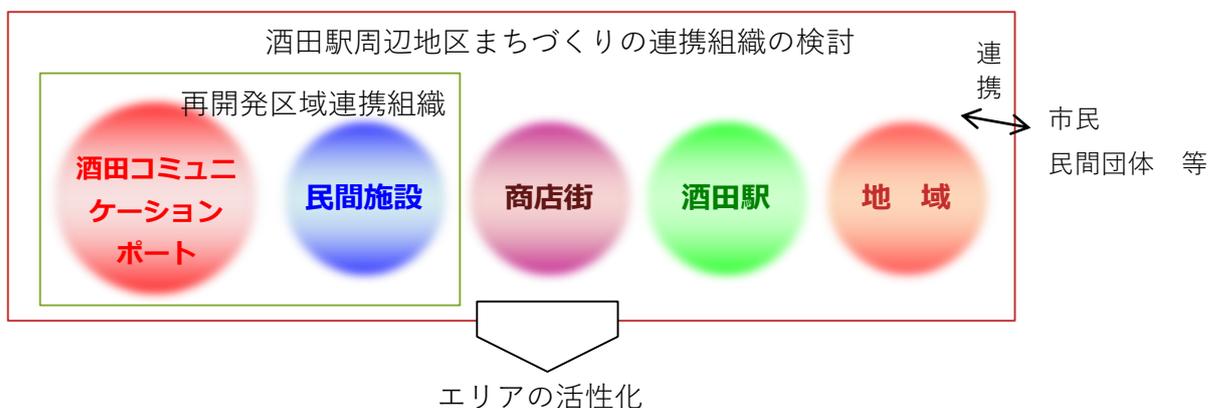
事業計画においては、運営に関する適切な指標を選定し、目標を設定します。

事業計画及び目標の達成状況に関しては、自己評価を行い、その評価については、市民公募も想定した運営評価委員会（仮称）で評価してもらい、その結果を公表するとともに次年度への計画に反映していきます。

(5) 民間施設、周辺関係機関等との連携（エリアマネジメント組織の検討）

前述(2)で述べたように、酒田コミュニケーションポートの運営だけを考えれば良いのではなく、酒田駅前地区のまちづくり、活性化も合わせて考えていかなければなりません。その中で、酒田コミュニケーションポートが牽引していく役割は大きいものがあります。

点ではなく面（エリア）でのまちづくりを進めていくため、再開発区域内の民間施設との連携組織や駅前商店街、酒田駅、地域コミュニティ等との連携組織の検討を行います。



12 人材の確保及び育成

本基本計画の策定にあたり、市民の皆様から酒田コミュニケーションポートの運営に従事する「人材」の重要性についてご意見をいただいています。

まさしく、この施設を生かすのは、「人」次第となるでしょう。レンファレンス、観光コンシェルジュなどにおいて、満足度の高いサービスを提供しつづけるのは、簡単なことではありません。そのためにも、本基本計画の基本理念、目標、価値観に共有、共感できる人材の確保が、まず重要となります。

あわせて、弛まない人材育成が必要であります。専門的な研修ももちろん必要ですが、地域とつながって、様々な分野と交流していくことも大事になってきます。後述する市民との協働も人材育成の大切な場になってきます。

なお、次の視点により人材の確保、育成を図って行きます。

・専門性とホスピタリティのある人材

酒田の玄関口としてふさわしいおもてなしの心で対応します。

・新しいことに常にチャレンジする人材

どこにでもあるような施設ではなく、新しいサービスを追求し続けます。そして、ここへ何度でも来たくなるような体験、出会い、交流を生み出します。

・人を大切にする人材

酒田で学び、働き、住み続ける人と呼び寄せ、育て、つなぎます。

13 市民とともに歩み、成長していく施設づくりを目指して

酒田コミュニケーションポートは、建てて終わりではありません。開館後の運営、サービスの中身こそが重要であり、多くの市民に愛され続け、使われ続けるには、組織の持続的な成長が欠かせません。

市民のものとして、市民と協働し、ともに成長していくことで、目標を達成することができます。市民アンケートでは、運営に参画してみたいという回答が 56.3%と半数以上もの多さで、多くの市民の参画意欲が確認できました。

具体的な市民協働の仕組みとして、次のことが考えられます。

- ・アンケート（満足度調査等）、ワークショップ、グループインタビュー等の定期的実施

市民の声を事業計画に反映させていくため、様々な手法を用いて、中長期的に市民が参画しやすい環境を作ります。

- ・市民サポーター制度の導入

ボランティア団体とも連携し、施設全体の市民サポーターを形成します。

- ・運営評価委員会への参画（再掲）

公募により運営評価などを行う委員会への市民参画を図ります。

施設が出来てからが、本当のスタートだとも言えます。時代の流れとともに市民ニーズの変化に的確に反応し、対応できるよう、市民参画型の施設づくりを進めていきます。

14 事業スケジュール

施設整備に係る事業スケジュールは、次のとおりです。なお、本基本計画を踏まえて、具体的な管理運営計画や施設計画の策定を、平成 29 年度に行います。

現時点での見込みのため、今後、状況に応じて、変更していく可能性があります。

- | | |
|-------|-------------------|
| ○基本設計 | 平成 28 年度～平成 29 年度 |
| ○実施設計 | 平成 29 年度 |
| ○建設工事 | 平成 30 年度～平成 31 年度 |
| ○開館準備 | 平成 31 年度～平成 32 年度 |
| ○開館 | 平成 33 年 4 月頃 |

資料編

- 1 酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会
 - (1) 設置要綱
 - (2) 委員名簿
 - (3) 経過・内容等

- 2 アンケート集計結果
 - (1) 市民アンケート
 - (2) 高校生アンケート

- 3 市民ワークショップ結果

- 4 高校生ワークショップ結果

- 5 各団体等の意見交換

(予定)

※整備検討委員会の議事録やアンケート結果の報告書（全文）などを資料編として添付する予定です。

写 真

表 紙：平成 28 年 7 月に事業予定者に選定された西松建設株式会社の提案プラン図

酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画（案）

発 行 山形県酒田市
〒998-8540 山形県酒田市本町二丁目 2 番 4 5 号
電話 0234(22)5111（代表）

編 集 酒田市企画振興部都市デザイン課
E-mail toshi-design@city.sakata.lg.jp

策 定 平成 29 年●月